



第六十七 議會參考資料目次

一、御尊影取締法制定ノ請願ニ關スル件	一
二、國民禮實施ノ請願ニ關スル件	五
三、國民警察法制定ノ建議ニ關スル件	七
四、警察費國庫下渡金割合改正ニ關スル件	一
五、警察官吏ノ待遇改善ニ關スル件	一七
六、公設消防組經費補助及消防組員優遇表彰等ニ關スル件	二三
七、映畫國策ニ關スル件	二九
八、行政執行法中改正ニ關スル件	三九
九、未成年者飲酒禁止法中改正ノ件	五三

- 一〇、質屋取締法中改正ノ件……………六七
- 一一、古物商取締法改正ノ件……………八七
- 一二、公娼制度ニ關スル件……………一〇三
- 一三、東北地方ニ於ケル婦女身賣防止ニ關スル件……………一二一
- 一四、風俗警察ニ關スル件……………一二七
- 一五、演劇脚本檢閲統一ニ關スル件……………一三三
- 一六、大阪爆發物貯庫及横濱爆發物貯庫移轉ニ關スル件……………一三七
- 一七、活動寫眞フィルム檢閲概況……………一三九

一、御尊影取締法制定ノ請願ニ關スル件

本件請願ノ要旨ハ近來新聞、雜誌等ニ御尊影ヲ掲載スルモノ著シク増加シ爲ニ不知不識ノ間ニ之ガ取扱ヲ粗略ニシ或ハ之ヲ汚瀆シ奉ル等不敬ニ涉ル虞アリトヒズ、誠ニ恐懼ニ堪エザルト共ニ國民思想上ニ及ボス悪影響亦尠カラザルモノアリ仍テ之ガ取締法ヲ制定シ取扱ヲ鄭重ニセシメ以テ御尊影ニ對シ敬虔ノ觀念涵養ニ努メラレタシト云フニ任リ。

而シテ本件ト同様ノ内容ヲ有スル請願ハ數回帝國議會ニ提出採擇セラレタルコトアリ。

政府ニ於テモ固ヨリ之ガ趣旨ニ付テハ贊同スル所ニシテ、是

ニ忽緒ニ付スベカラザルモノト認メ、夙ニ明治三十一年十二月内務大臣ハ諭告ヲ發シ、粗造ニ流ルルモノナカラシムルト共ニ取扱上苟クモ不敬ニ涉ルコトナカラシムルノ趣旨ヲ公示シ、出版物ノ査察取締ヲ嚴ニシ、又地方長官及警察部長會同ノ際ニ於テハ、從來屢々詳細指示シ各管下ニ告諭ヲ發セシメ更ニ各種ノ機會ヲ利用シ、御尊影取扱上ノ注意ヲ促シ以テ之ヲ鄭重ニ取扱フノ良風ヲ馴致セシムルニ努メツツアリタル處ナルガ更ニ最近ノ狀勢ニ鑑ミ、昭和六年四月地方長官會議並ニ同年五月警察部長會議ニ於テ之ガ指示ヲ重ネ以テ本件ニ關スル深甚ナル注意ヲ促シ具ノ處理上苟クモ遺憾ナクヲ期シタル所ナリ。

向シテ出版物ニ、御尊像ヲ掲載スルハ主トシテ皇室ノ御近況ヲ普ク一般ニ紹介シ尊崇ノ念ヲ深カラシメムトスルニ在ルモノニシテ、之ガ取扱ニ關シテハ國民訓育ノカニ俟ツベキモノニシテ、新ニ法規ヲ制定シ之ニ臨ムガ如クハ望マシカラザル所ナルヲ以テ前掲方法ニ依ル取締ヲ勵行スルト共ニ國民ノ教化訓育ニ努メ、御尊影取締ノ上ニ遺憾ナクヲ期セムトス。

二、國民禮實施ノ請願ニ關スル件

本件請願ノ要旨ハ函簿拜觀者ガ、拜觀地點ニ於テ整然タル幾重ノ横列ヲ作り其ノ列毎ニ拜觀者五ニ握手ヲ合ヒ函簿御通過ヲ待テテ敬禮ヲ行フコトハ、敬禮本來ノ目的ニ合致スルノミナラズ拜觀ト同時ニ協力一致御警衛ニ任ズルヲ得ルガ故ニ、一舉兩得ノ敬禮様式タルヲ失ハズ依テ上述ノ所謂函簿拜觀連鎖握手ヲ敬禮様式トスル國民禮ヲ制定セラレタリト謂フニ在リ、行幸啓ノ際函簿ノ絶對安全ヲ期セントスルハ政府亦固ヨリ度幾スル所ニシテ之ガ為常ニ不逞徒輩及銃砲火藥類等ニ對スル查察取締ヲ嚴密ナラシメ又直接警衛方法ニ關レテ各般ノ

方途ヲ講ジ以テ之ガ完璧ヲ期シツツアル所ナリ。  
 而シテ鹵簿拜觀連鎖握手ヲ以テ國民的警備ヲ行ハントスル請  
 願ノ趣旨ハ固ヨリ排斥スベキ筋ニアラスト雖之國民ノ皇室ニ  
 對スル尊崇ノ念ヲ基礎トセル自發的意志ノ發露トシテ期待ス  
 ベキ事項ニシテ法規等ヲ以テ之ヲ強制スルガ如キハ相當考慮  
 人ベク今遽カニ之ニ賛スルヲ得ズ  
 仍テ政府ハ前並ノ如ク警備警備ヲ一層周密トシメ以テ萬遺  
 憾ナクヲ期スルト共ニ他國國民ノ自發的行為トシテ之ニ協力  
 寄與スル所アルヲ望ムモノナリ。

三、國民警察法制定ノ建議ニ關スル件

一、沿革

荒川五郎君外二名ヨリ提出アリ衆議院ハ第六十二帝國議會  
 ニ於テ之ヲ至當ト認メテ可決セリ。

二、建議ノ要旨

本建議案ノ要旨ハ元年ノ虎ノ門事件及櫻田門外事件ノ如ク  
 一般國民ノ夢想ダニシ能ハザルガ如キ大不祥事件ノ發生ヲ  
 見タルハ是ニ恐懼ニ堪ヘザル所ナリ、是等事件ノ防止ニ關  
 シテハ現在警察官吏ニ於テ警備警備上充分留意サレツツア  
 ル所ナリト雖無數ノ奉拜者ヲ對象トスル以上其ノ數ニ限度

アル警察官吏ヲ以テハ之ガ事故ノ絶滅ヲ期スルヒニ遺憾ノ  
 點ナレトセバ、之ガ完壁ヲ期スルハ國民一般ノ忠誠心ニ依  
 賴シ國民精神ニ基テ藩屏的發動ヲ促スノ方法ヲ講ズルヲ最  
 モ適當ノ處置タルモノト信ズ、即チ青年團員、在郷軍人會  
 員、消防組員等ヲシテ警察官吏ニ協力御警衛ノ任ニ膺ラシ  
 ムルノ方法ヲ執ルヲ要スベシ、政府ハ右方法ヲ實施スル為  
 徒ニ國民警察法ヲ制定シ之ガ動員法ヲ定ムルト共ニ時ニ演  
 習訓練ヲ行ヒ國民的警衛ノ喫緊ナルヲ自覺セシメ以テ斯ノ  
 如ク不祥事件ノ絶滅ヲ期スルニ遺憾ナカラシムルト共ニ必  
 要ニ依リテハ一般交通整理、逃亡者ノ逮捕、搜索或ハ水火

災警戒防禦等ニ付テモ警察ニ協力スルノ途ヲ開カレタリト  
 謂フニ在リ。

### (三) 右ニ對スル意見

不祥事件ノ發生ヲ見ルニ至リタルハ寔ニ遺憾ニ堪ヘザル所  
 ナルガ、政府ニ於テハ常ニ不逞徒輩ノ視察取締ヲ嚴シシ、  
 海港警備及移動警察ヲ實施シ或ハ銃砲火藥類其ノ他危險物  
 ノ取締ヲ嚴密トシテムル等鋭意警察ノ徹底ヲ期スルト共ニ  
 警衛第一線ニ於ケル警察官吏ノ警衛方法ニ付テハ各種ノ方  
 途ヲ講ジ以テ萬遺憾ナクヲ期シツツアリ、而シテ本件建議  
 ニ付テモ其ノ趣旨ニ付テハ固ヨリ反對ニ非ズ。既ニ地方行

卒啓ニ際シテハ消防組員、在郷軍人、青年團員等ヲ警備補助員トシテ採用シ警察官吏指揮ノ下ニ警備務ヲ補助セシムルハ通例ノ事ニ屬シ、以テ相當ノ成果ヲ擧ゲツツアル所ナリ。然レドモ之ヲ一個ノ制度トシテ法律化シ、常時實施スル上ニ於テハ却テ其ノ間諸種ノ紛更ヲ來スモノアル等相當留意ヲ要スル所ナリ。

依テ政府ハ本件建議ノ趣旨ハ之ヲ尊重スベキ意見トシテ了兼スルモ、即時實施ニ就テハ今遽ニ贊同シ難シ。

四、警察費國庫下渡金割合改正ニ關スル件

警察費國庫下渡金割合ハ過去數次ノ改正ヲ經テ現在東京府ニ對シテハ十分ノ六(但シ大正十三年度以降ハ國庫警察費中一千六百萬圓ヲ超過スル額ニ對シテハ十分ノ三半ニ制限セラレ)大阪府ニ對シテハ十分ノ三半、其ノ他ノ廳府縣ニ對シテハ一率ニ六分ノ一ニ定メラレ其國庫負擔額ハ昭和九年度ニ於テ二千二百七十七萬圓ニ上ル所ナリ。然ルニ最近各般ノ社會狀勢ニ鑑ミ警察力ノ充實ヲ要スルモ、尠カラズ之ニ伴ヒ地方警察費亦相當増額ヲ見ルハ免レザル所ナルモ地方財政ニ於テハ他面土木教育費等一般地方費膨脹ト共ニ負擔過重ニ苦シミツツア



リ、警察費ノ如クハ其ノ性質上前記下渡金割合ニ適當ノ改正ヲ行ヒ國庫負擔額ヲ増加シ警察力充實上支障アリテシムルト共ニ地方費負擔ノ軽減ヲ圖ルノ必要アルハ之ヲ認メザルヲ得ズ、殊ニ此ノ事情ハ警察事務ノ現狀ニ照シ東京、大阪、京都、神奈川、兵庫及愛知等ノ各府縣ニ於テ特ニ著シク之等關係府縣知事及各府縣會議長等ヨリ屢々意見書ノ提出等ニ依リ下渡金率改正或ハ其ノ制限撤廢方ヲ期望スル所アリ、當向亦其ノ要望中適切ナルモノアルヲ認ムル所ナリト雖モ繼テ國家財政ノ狀況ヲ見ルニ、今儘ニ國庫負擔額ヲ増大セシムルガ如クハ到底之ヲ許サザル所ニシテ本件警察費國庫下渡金割合ノ改定

ニ付テハ直ニ之ヲ實施シ得ザル狀況ニ在ルヲ遺憾トスル所ナリ。

(現行規定)

府縣警察費ニ對スル國庫下渡金ノ割合

(明治二十一年八月七日勅令第六一號)

改正 大正七年三月勅令第二四號、大正八年五月

勅令第百三十二號、大正十四年十月勅

令第百九十四號

明治十四年二月第百六號布告府縣警察費ニ對スル國庫下渡金ノ割合左ノ通改定ス

第一條 地方稅中警察費及警察廳舎建築修繕費ニ對スル

國庫下渡金ノ割合ハ東京、<sup>府</sup>其ノ總高ノ十分ノ六、大阪

府ハ十分ノ三半トシ其ノ他ノ府縣ハ六分ノ一トス但シ

東京府ニ付テハ大正十二年九月ノ震災ニ基ク警察廳舎ノ復舊ニ要スル建築修繕費ヲ除キ其ノ總高一千六百萬圓ヲ超過スル額ニ對シテハ十分ノ三半トス

第二條 前條割合ノ外警察官吏並ニ之ニ準スヘキ備内外國人ノ諸給與警視廳ノ廳費ハ従前ノ通國庫ヨリ支給ス  
第三條 本令ハ明治二十二年度ヨリ施行ス

警察費國庫下入金沿革一覽

- 一、明治十四年二月太政官布告第十六號  
東京府 ———— 十分ノ六  
其他ノ府縣(神戶縣) ———— 十三分ノ三
- 二、明治二十一年八月七日勅令第六一號 (二十二年度ヨリ) (全部改正)  
東京府 ———— 十分ノ四  
其他ノ府縣(神戶縣) ———— 六分ノ一

三、大正七年三月二十二日勅令第二四號 (七年度ヨリ) (一部改正)  
東京府 ———— 十分ノ六  
其他ノ府縣 ———— 六分ノ一

四、大正八年五月十六日勅令第二二二號 (八年度ヨリ) (一部改正)  
東京府 ———— 十分ノ六  
大阪府 ———— 十分ノ三半  
其他ノ府縣 ———— 六分ノ一

五、大正十四年十月五日勅令第二九四號 (大正十四年度ヨリ)  
東京府 ———— 十分ノ六  
但シ大正十二年九月ノ震災ニ基ク警察廳舎ノ復舊ニ要スル建築修繕費ヲ除キ其ノ總高一千六百萬圓ヲ超過スル額ニ對シテハ十分ノ三半  
大阪府 ———— 十分ノ三半  
其他ノ府縣 ———— 六分ノ一

○ 北海道

明治三十四年三月二十八日法律第三號北海道地方費法第八條  
明治三十四年三月三十一日勅令第一八號北海道地



相當待遇ノ向上ヲ期シ得ル所ナルヲ以テ從來ト同様國庫及地方財政ノ實狀ノ許ス限リ支給豫算額ヲ漸次増額スルコトニ依リ其ノ目的ヲ達成セリトス。又給與規定以外ニ於テハ昭和八年二月巡査令限令並ニ巡査懲戒令ヲ制定シ以テ免黜及懲戒ニ關スル原則ヲ明示シテ其ノ取扱ヒヲ慎重ナラシムル等巡査ノ身分保障制度ヲ確立シテ其ノ地位ヲ安固ナラシメ同年十月ニハ巡査及消防予休職規則ヲ定メ事務繁閑ヲ考慮シ事務上支障ナキ限リ成ルベク一般のニ休養ノ機會ヲ與フルコトヲ圖リ

昭和十年六月 警察官服制 巡査官賞與規則ニ關シテハ既ニ之ガ改正ノ成案ヲ得テ目下審議中ナルヲ以テ近ク實現ノ運ビニ至ラントス。更

ナキ限リ成ルベク一般のニ休養ノ機會ヲ與フルコトヲ圖リ

昭和十年六月 警察官服制 巡査官賞與規則ニ關シテハ既ニ之ガ改正ノ成案ヲ得テ目下審議中ナルヲ以テ近ク實現ノ運ビニ至ラントス。更

ニ又待遇官等其ノ他精神の優遇ノ方途ニ關シテハ鋭意研究中ナリ。

巡査給與令 (明治三十九年勅令第三五九號) ニ依ル給與一覽

給與別	給與條件	現行規定額	改正前規定額
月俸 (一俸ノ一)	現定月俸ノ最上額ヲ受ケ二年ヲ超ヘ事務練熟優等ナルモノニ加給シ得	巡査部長タル巡査 月額一。月以内 巡査 同 七。月以内 三。月乃至七。月	同 一五。月乃至四五。月
功勞加俸 (四俸ノ二)	功勞拔群ニ敏、業績トナルベクモノニシテ内務大臣ヨリ功勞記章ヲ付與セラレタル巡査ニ給ス	月額二。月以内	月額一。月以内
同加俸 (一俸ノ三)	同ノ總有職ニ於テ五年以上勤績シテ行狀方正勤務勉勵著格熟達ノ巡査ニシテ總督或長官ニ於テ其ノ功勞ヲ表彰シタル者ニ	月額一。月以内	月額五。月以内

特別手当 (一六條)	前項通譯長、他特別ノ技能ヲ有スル巡査ニ給シ得	月額五。日以内	月額二。日以内
非常勤務手当 (一七條)	非常ノ日ニ於テ臨時勤務ニ限リタル巡査ニ給シ得	一日二日以内	一日一日以内
訓練手当 (一九條)	訓練中ノ巡査ニ給シ得	一月二。日以内 一月二。日以内	一月一。日以内 一月一。日以内
休職中ノ給與 (二〇條)	巡査ノ限令第五條第一號乃至第四號ニ依リ休職ヲ命ヒラレタルモノニ給ス	月俸 三分ノ一額	(昭和八年三月創設)
同上 (二二條)	戦時事變ニ際シ陸海軍ニ召集セラレタル者休職ヲ命ヒラレタル者ニ給スルコトヲ得	陸海軍ニ受テ給付又ハ俸給ノ月額、巡査休職當時ノ月俸ヨリ算出アルトスル其差額	同上

昭和八年三月創設

警察官吏俸給豫算及實給平均額

豫算ハ昭和九年年度當初豫算計上額  
實給額ハ昭和八年十二月(警視ハ九年八月)現在

區別	豫算	實給	備考
警視	年三〇七。四(七九人) 年一六七。四(二六七人)	下平入四 一、四四九 一、三九五	警視廳及道有警署長或警署長ノ内特 定事務ニ従事スル警視並ニ下開ノ各級水上署 長タル警視ハ九人、年三〇七。四 前年度ニ比シテ警視ハ十人増ハ警視廳特別 警備隊員タルモノハ三人増ハ警署長警署二 人分トス
警部	月七四。六(六三三人)	月七四。〇	又警部ハ、八級ハ警部警署長ノ警備四河路ニ 係ル者ハ、八級警部長特別警備隊員増 一人トス、差額減トス
警部補	月四四。一(六六四人)	月六二。四	
巡査部長	月三三。七(八八一人)	月五九。八	
巡査	月九四。九(五九八五人)	月五〇。四	

備考

一、警部補以下ノ俸給豫算ハ警部補巡査ヲ通算セルモノ、警部補ト巡査部長ト  
通算スルモノ、他ノ巡査ト區別セルモノ等アリテ嚴格ニ之ヲ區別シ難シ  
一、警視、警部、定員ハ昭和九年年度豫算ニ依リ、警部補以下ハ昭和八年十二月一日  
現在トス

六、公設消防組經費補助及消防組員優遇表彰等ニ關スル件

一、沿革

消防組經費國庫補助ニ關シ或ハ消防組員ノ優遇ニ關シ又ハ  
 消防組員表彰法制定ニ關シ第五十一議會(大正十四年同十五年)ニ於テハ  
 衆議院議員倉元要一君外十三名、第五十二議會(大正十五年昭和三年)ニ  
 於テハ同君外二名、第五十三議會(昭和三年)ニ於テハ同君外  
 三名及藤原和市君外四名、第五十六議會(昭和四年)ニ於テハ  
 衆議院議員淺川浩君外五名及藤原和市君外四名ヨリ各建議  
 案ノ提出ヲ見タリ、第五十八議會ニ於テハ石井喜一君ヨリ  
 消防組員優遇ニ關スル請願ヲ提出衆議院ハ其ノ趣旨至當ナ

リトシテ之ヲ採擇シタリ。第五十九議會（昭和五年）ニ於テ亦石井善一君ヨリ同様消防組員優遇ニ關スル請願ヲ提出シ象議院ハ其ノ趣旨至當ト認メ之ヲ採擇シ尚象議院議員淺川浩君ハ消防組員表領並ニ優遇ニ關スル建議案ヲ提出シ同院ハ之ヲ可決シタリ。

（三）建議案提出ノ要旨

一、消防組經費國庫補助

消防組ノ發達如何ハ災害防止上至大ノ關係ヲ有ス然ルニ市町村ハ消防組規則ニ依リ一切ノ經費ヲ負擔セルヲ以テ之ノ發達ヲ期シ難シ依テ政府ハ市町村ニ對シ消防組員

ノ被服費又ハ手當ニ要スル經費ノ二分ノ一ハ消防組ノ器具及建物ニ要スル經費ノ二分ノ一ノ國庫補助金ヲ交付セラレタリ

二、消防組優遇

消防組ハ平時ニ在リテハ地方ノ幸福安寧ノ為ニ盡カシ且震火水害等ノ事變ニ對シテハ身命ヲ賭シ社會ニ貢獻シツツアルハ國民ノ齊シク感激スル所ナリ然ルニ國家トシテ直接之ニ酬ユルト又ハ遺懸不合理ナルガ故ニ年金、恩給叙位、叙勲等ノ方途ニ依リ相當優遇ノ途ヲ講ビラレタリ

三、消防組員表彰法

消防組員ハ水火災ノ警防ニ際シ挺身其ノ任務ニ就キ職責ヲ果スノ狀恰モ陸海軍ガ國難ニ赴クト同様ナリ、然ルニ隨時極メテ少額ノ手當ヲ受クルノミ而シテ僅カニ消防義會等ノ如キ消防後援團體ニ於テ之ヲ表彰慰安スルニ過キザルノ現況ニシテ三十年、五十年ノ勤績者ニ對シテハ是ニ同情ニ堪ヘザルモノアリ依テ政府ハ消防組員表彰法ヲ制定シ旌表ノ方途ヲ講ビテラタシ

(三) 請願ノ要旨

- 一、職務ノ為ニ負傷又ハ死亡シタル消防組員並ニ其ノ遺族ニ對シテ政府ヨリ直接ニ之カ弔慰救濟ノ制度ヲ、

- 二、拔群ノ功勞アリタル消防組員ニ對シテハ政府ヨリ直接ニ之ヲ論功行賞スルノ制度ヲ、

何レモ設定セテラタシト謂フニ在リ、

四、右ニ對スル意見

一、消防組經費國庫補助

消防組ハ水火災ノ警戒防禦ニ從事セシムル國家警察機關タリ故ニ之ニ要スル經費ヲ國庫ヨリ市町村ニ補助スルハ消防組ノ職任ニ鑑ミ固ヨリ其ノ趣旨ニ反對スル所ニ非ズト雖國家財政ノ現況ニ鑑ミ今遠ニ之ヲ實現スルヲ得ズ

二、消防組員ノ優遇



消防組員ニ對スル年金恩給ノ制ハ國家財政ノ現狀ニ稽ヘ  
 之ヲ採用スルコト困難ナリト雖消防組員ノ優遇ニ付テハ  
 從來相當留意セル所ニシテ警察賞典規則ニ依リ之ヲ行賞  
 シ殊ニ功勞拔群ナルモノニ對シテハ叙勲ノ恩典ニ浴セシ  
 メ皆レルモ尚一層考慮ヲ致シ之ガ優遇ニ努ムベシ

三、消防組員表彰法

消防組員ハ常ニ御間ノ水火災警防ニ從事スルハ勿論地方  
 公共ノ爲ニ勞興スルコト是ニ甚大ナルニ拘ラズ其ノ受ク  
 ル待遇ノ充分ヲ得ザルハ遺憾トス其ノ永年勤績者ニ對シテ表  
 彰ノ方途ヲ講ゼントスルノ意見ハ固キ之ヲ詳トスル所ナリ  
 政府ハ他ノ國家旌表ノ權衡ヲ稽ヘ相當考慮スベシ

七、映畫國策ニ關スル件

沿革

イ、議會關係

第五十七議會及第六十四議會ニ於ケル貴族院ニ於テハ議員  
 紀俊秀君ヨリ映畫國策ニ關スル質問アリ第六十四議會ノ衆  
 議院ニ於テハ議員岩瀬亮君ヨリ映畫國策樹立ニ關スル建議  
 案ノ提出アリロ政府ハ速ニ映畫統制ノ爲適切ナル機關ヲ設  
 ケ其ノ發達ヲ期スルト共ニ豫メ之ニ伴フ諸般ノ弊害ヲ防止  
 セラレシトテ望ムコト云フニ在リ、同院ニ於テ之ヲ可決  
 ス

ロ、映画統制委員會設置ニ關スル経過

映画ノ有スル國家的社會的重要性を鑑ミ政府ハ各國ニ於ケル映画國策ノ概況ヲ調査シ我國ニ於テモ映画統制ノ要アルヲ認メタルヲ以テ昭和九年三月十三日映画統制委員會規程ノ閣議決定ヲ為シタリ、映画統制委員會設置セラルルニ其ノ後數次ニ涉リ各種映画統制ノ審議研究ヲ行ヒツツアリ之ガ成業ヲ得ルニ於テハ著々之ヲ實行ニ移レテ映画統制ノ遂行ヲ為サントス

ハ、映画統制委員會ノ組織及事業ハ概ネ左ノ如シ

映画統制委員會ハ内務大臣ノ監督ニ屬シ映画統制其ノ他

画ニ關スル重要事項ヲ調査審議シ又ハ之等ノ事項ニ付内閣

總理大臣又ハ關係各省大臣ニ建議スルコトヲ得

委員會ハ會長ヲ内務大臣ト為シ委員ニハ内務次官、文部次

官、内務省警保局長、社會局長官、文部省社會教育局長、

大藏省主税局長、學識経験アル者若干名ヲ以テ組織ス尚臨

時委員ハ關係各廳高等官及學識経験アル者ノ中ヨリ内務大

臣ニ於テ之ヲ命ジ又ハ囑託ス

二、映画國策委員會<sup>會</sup>ニ於テ審議セントスル事項概ネ左ノ如シ

一、各官廳ニ於ケル映画行政ノ聯絡統制ニ關スル事項

二、各官廳ニ於ケル映画ノ製作、配給、上映ニ關スル事業

ノ聯絡統制ニ關スル事項

三、國產映画事業ノ指導統制並ニ保護獎勵ニ關スル事項

(1) 外國映画輸入ニ關スル事項

(2) 映画製作業者ノ獎勵、助成殊ニ優良映画製作業者ニ對スル獎勵金若ハ賞金授與ニ關スル事項

(3) 映画製作業者ノ指導、監督ニ關スル事項

(4) 國產映画ノ海外ニ於ケル販路開拓ニ關スル事項

(5) 映画ニ依ル我國文化ノ宣傳紹介ニ關スル事項

(6) 國產生ノフィルム製造工業確立ニ關スル事項

四、教化映画ニ關スル事項

(1) 國家、公共團體等ノ教化映画ノ製作、配給、上映

ニ關スル事項

(2) 教化映画ノ製作者並ニ配給者ノ指導、統制、獎勵

助成ニ關スル事項

(3) 映画館ニ於ケル教化映画ノ強制上映ニ關スル事項

(4) 教化映画上映ノ際ニ於ケル觀覽稅又ハ興行稅ノ減

免ニ關スル事項

(5) 其ノ他教化映画ニ對スル方策確立ニ關スル事項

五、映画檢閲ニ關スル事項

(1) 年少者ノ映画觀覽ノ制限ニ關スル事項

(四)、輸出映画ノ檢閲ニ關スル事項

(ハ)、輸入映画ニ對スル内務省檢閲ト税關ニ於ケル檢閲

トノ統一ニ關スル事項

(ニ)、映画ノ廣告、説明ニ關スル事項

六、映画所管機關ニ關スル事項

七、其ノ他映画ニ關スル重要事項

ホ、映画國策問題ノ概要

近時映画ノ社會教化、宣傳等ノ方面ニ於ケル文化的使命並ニ其ノ娯樂的價值ヲ適ク認識セラレ又産業トシテノ重要性ヲ増加シ來レルガ為各國ハ或ハ映画事業ヲ國家ノ管理ニ移

シ或ハ教化の宣傳的映画ヲ國家自身之ヲ製作シ若ハ國家ノ支援スル團體ヲシテ之ヲ製作セシメ又ハ之ヲ製作配給スルモノヲ指導奨励シ或ハ映画館ニ教化映画、教育映画ノ強制ヒ映ヲ命ジ或ハ之ガ配給者又ハ上映者ニ税ノ減免ヲ與ヘ更ニ外國映画ノ輸入制限法ヲ設ケテ國內映画産業ヲ保護シ又ハ進レテ映画業者ヲ指導援助シテ海外ニ於ケル映画ノ販路開拓ヲ計ルノ映画事業ニ對スル國策ノ樹立及之ガ實行ニ努メツツアルガ之等各國ニ於ケル映画國策ノ概況ト我國ノ現狀トヲ比較考慮シ將來我國ニ於テ映画事業ニ對スル國策ヲ樹立スルニ際シ主トシテ考究ヲ要スルト認メラルル事項ヲ

掲ゲレバ左ノ如シ

(一) 映画事業ノ指導統制ノ為ノ行政機關又ハ團體設置ノ問題

(二) 國産映画ノ指導保護獎勵ノ問題

本問題中ニハ (一) 外國映画輸入制限ノ問題 (二) 映画製作會社ノ指導並ニ監督ノ問題 (三) 映画製作會社ノ獎勵助成業務ニ優良映画製作者ニ對スル獎勵金若ハ賞金優典ノ問題 (四) 國産映画ノ海外ニ於ケル販路開拓ノ問題 (五) 中映画ニ依リ我國ノ政治、經濟、社會事情其ノ他文化一般ヲ外國ニ宣傳紹介スル問題 (六) 國産生フィルム製造工業確立ノ問題ヲ含ム

(三) 教育映画乃至教化映画ノ問題

教育映画乃至教化映画ノ問題中主要ナル問題ハ之等映画ニ依リテ一國ノ指導原理、指導精神乃至倫理道德等ヲ國民ニ宣明、鼓吹、徹底スル問題、其ノ他之等映画ニ依ル大衆ノ智識的教育、情操教育ノ問題ニシテ、此ノ中ニハ (一) 右述ナル見地ヨリスル國家ノ教化映画ニ對スル方策樹立ノ問題、恙テハ國家、公共團體若ハ之ニ類スル施設自身ニ依ル映画ノ製作、配給若ハ上映ノ問題 (二) 教育映画又ハ教化映画ノ製作者若ハ配給者ノ指導統制乃至獎勵助成ノ問題 (三) 映画館ニ於ケル教育映画乃至教化映画ノ強制上

映ノ問題(四)教育映画乃至教化映画上映ノ際ニ於ケル観覧  
税若ハ興行税ノ減免ノ問題ヲ含ム

四、映画研究機関、映画博物館、映画ライブラリー、映画  
俳優學校、映画技術學校等ノ設置ノ問題

五、映画検閲ノ問題

検閲機関ノ國家的統一ハ我國ニ於テハ夙ニ實現サレテ居  
ル處ナルモ尙(一)年少者ノ映画観覽ノ制限ノ問題(二)輸出映  
画検閲ノ問題(三)内務省ノ検閲ト税關ニ於ケル検閲トノ統  
一問題(四)陪審検閲ノ問題等之ナリ。

八 行政執行法中改正ニ關スル件

一 沿革

本法草案ハ第五十六議會(昭和三年)ニ於テ一松定吉君外四  
名ヨリ衆議院ニ提出アリ其ノ原案ハ現行規定第一條第一項  
ノ次ニ

「釋放シタル被檢束者ヲ同一原因ヲ以テ再ビ檢束スルコト  
ヲ得ズレ

ヲ加ヘ第二項中「前項レヲ」第一項レニ改ムトアリタルヲ  
委員會ニ於テ「同一原因レヲ」同一事由レニ修正本會議ニ  
於テ可決シ貴族院ニ回付シタルモ審議未了トナリタリ、更

ニ第五十八議會（昭和五年）ニ於テハ一松定吉君外ニ名ヨリ  
 第五十大議會ノ修正案自体ヲ衆議院ニ提出シタルモ同議會  
 ニ於テハ委員會ニ附託セラレタル儘審議未了トナリタルモ  
 ノナリ

第五十九議會（昭和五年）ニ於テハ同様ノ法律案ヲ衆議院ニ  
 提出シ衆議院ハ之ヲ可決シ貴族院ニ送付シ貴族院ニ於テ委員  
 會ニ附託セラレタルモ審議終了ニ至ラザリシモノナリ

第六十四議會（昭和八年）ニ於テハ前掲同様法律案ヲ一松定  
 吉君外三名ヨリ衆議院ニ提出シ衆議院ハ之ヲ可決シ貴族院  
 ニ送付シタルニ貴族院ハ之ヲ否決シタリ

第六十五議會ニ於テハ一松定吉君ヨリ左記第二頁ノ如ク法  
 律案ヲ提出シ衆議院ハ之ヲ可決シ貴族院ニ回付シタルモ審議  
 未了トナレリ

三、改正法律案及提出ノ理由ハ左ノ如シ

行政執行法改正法律案

行政執行法中左ノ通改正ス

第一條第二項ヲ左ノ如ク改ム

前項ノ檢束ハ翌日ノ日没後ニ至ルコトヲ得ズ但シ派駐者  
 、瘋癲者、自殺ヲ企ツル者其ノ他救護ヲ要スル者ニ對シ  
 テハ保護者又ハ列取人出頭ストル迄檢束ヲ繼續スルコトヲ

得

第一項ノ條領置ハ三十日以内ニ於テ其ノ期間ヲ定ムベシ

行政執行法改正法律案理由

行政執行法ハ行政警察上ノ必要ニ基キ臣民ノ自由權ニ對スル制限ヲ設ケタルモノナリト雖其ノ制限ニハ自ラ一定ノ限界ヲ劃シ以テ人權擁護ノ本旨ニ副ハンコトヲ期シタリ然レドモ行政警察ノ實際ニ於テハ往々ニレテ法律所定ノ限界ヲ超エテ不法ノ制限ヲ加ハ殊ニ司法警察ノ目的ノ爲ニ本法第一條第一項所定ノ條件ヲ具備セザル者ヲ不法ニ檢束シ若ハ檢束期間ニ加ヘラレタル制限ヲ形式上免レンガ爲ニ當該檢

束期間ノ經過ト同時ニ一度被檢束者ヲ警察官署外ニ連シ出シ直ニ之ヲ引キ戻シテ檢束ヲ繼續スルノ例ニ乏シカラズ斯ノ如キハ當該法律所定ノ制限ニ反シ當ニ法ノ精神ヲ汲却スルノミナラズ人權擁護ノ大精神ニ背反スルモノト謂ハザルベカラズ

惟フニ行政檢束ハ行政警察ノ目的ノ爲ニスト 方便ニシテ司法警察ノ目的ノ爲ニスト制度ニ非ズ司法警察ノ必要ニ應ズルガ爲ニハ刑事訴訟法所定ノ所謂強制處分ノ制度アリ兩者ハ彼是誤用スルコトナク要ス然ルニ之ガ運用上ノ實際ニ於テハ前述ノ如ク誤用ノ弊甚シトセズ故ニ保護檢束ノ場



合ニ在リテハ保護者ヲ取入ノ出頭スル直ニ繼續檢束ヲ爲シ得ルコトトシ豫防檢束ノ場合ニ在リテハ繼續檢束ヲ許サザル趣旨ヲ明瞭ナラシメ以テ之ガ弊害ヲ除去セントス是レ本案ヲ提出スル所以ナリ

右ニ關スル政府ノ意見

本件ハ之ヲ提案ノ理由ニ徴スルニ現行行政執行法律第一條第二項ニ於テ檢束ハ翌日ノ日没後ニ至ルコトヲ得ズト限定セルニ拘ラズ此ノ制限ヲ形式上免レンガ爲當該檢束期間ノ經過ト目時ニ一度<sup>検束</sup>檢束者ヲ警察官署外ニ遣出し再ビ之ヲ檢束スルガ如

※ハ法律所定ノ制限ニ反ス依テ本案ノ如ク保護檢束ノ場合ニ在リテハ保護者ヲ取入ノ出頭スル直ニ繼續檢束ヲ爲シ得ルコトトシ豫防檢束ノ場合ニ在リテハ繼續檢束ヲ許サザル趣旨ヲ明瞭ナラシメントスルニ在ルモ改正法律案ノ如ク爲スニ於テハ強暴ノ言動アル者在暴性ヲ有スル者其ノ他不穩不逞ノ徒ニシテ暴行若ハ闘争ヲ爲シ其ノ他公安ヲ害スル虞アル状態尙存スル場合ニ於テモ檢束ヲ反覆スルヲ得ザルコトトナリ公安上ノ見地ヨリ之ニ賛スルヲ得ズ、尙又本案ノ如ク保護檢束ニ關シ保護者又ハ取入出頭スル直ニ確定ノ期間檢束ヲ繼續シ得ル規定ヲ設クルトモハ<sup>酒醉者</sup>酒醉者ノ如キ覺醒後救護ノ必要ナキニ至

リタルトキハ直ニ之ヲ釋放スルノ要アルモノナルニモ拘ラズ  
 行政官廳中ニハ或ハ之ガ運用ヲ誤リ却テ人權ヲ必要以上ニ制  
 限スルコトナキヲ保セズ依テ政府ハ本改正案ニハ賛成スルコ  
 トヲ得ズ

要ハ現行行政執行法ノ濫用ヲ最ニ戒ムルニ在ルニ鑑ミ當省ニ  
 於テハ機會アル毎ニ地方長官ニ行政執行法ノ運用ヲ誤ラザル  
 様訓達スルトコロ在リタルガ更ニ先般内務大臣ヨリ廳府縣長  
 官ニ對シ之ガ運用ヲ慎重ニスルヲ要シ苟モ不當ノ認定ヲ爲シ  
 若ハ不法ノ制限ヲ加ヘ又ハ同法ヲ他ノ目的ノ爲ニ濫用シ若ハ  
 恣味ヲ能ラニ反覆繼續スルガ如キ非違ナキ様嚴重訓令スル所

47  
 了リタリ、更ニ司法大臣ヨリ檢事、司法警察官ニ對シ被疑者  
 ヲ拘束スル必要アリト認メ刑事訴訟法ノ認容セル發制ノ手續  
 ニ依ルコトヲ相當トスルトモハ其ノ一方法ニ依據スベク濫ニ行  
 政法上ノ處分ヲ利用スルガ如キコトアル可カラザル旨ノ訓令  
 アリ彼此相俟テ行政執行法ノ運用ニ關シテハ格段ノ注意ヲ措  
 ヒ甚遺憾ナキヲ期シツツアリ

○内務大臣訓令

内務省訓第三四號

聽府縣長官

行政執行法運用ニ關スル件

行政執行法ノ運用ニ關シテハ從來屢々訓達セル所ナルモ近時  
 之ガ執行<sup>カ</sup>ニ關シ兎角ノ論議ノ行ハルルアリ同法ハ行政官廳ニ  
 對シ廣キ範圍ノ裁量ニ依ル執行權ヲ與ヘタルニ鑑ミ之ガ運用  
 ハ特ニ慎重ニスルヲ要シ苟モ不當ノ認定ヲ爲シ若ハ不法ノ制  
 限ヲ加ヘ又ハ同法ヲ他ノ目的ノ爲ニ濫用シ若ハ檢束ヲ徒ニ反  
 覆連續スルガ如キ非違アルベカラザルハ勿論特ニ左記各項ニ  
 關シテ格段ノ注意ヲ精ヒ以テ同法ノ執行ニ就キ直覺ナキヲ期  
 セラルベシ

詔

一、 選舉取締ニ際シ徒ニ行政檢束ヲ爲スガ如キハ選舉ノ自由  
 ト公正トヲ害スルモノナルヲ以テ苟モ選舉取締ニ際シ行政  
 執行法ヲ濫用スルガ如キコトナキ様注意スルコト

一、 行政諸取締規則違反ノ如キ事犯ノ取調ニ際シ同法ニ依ル  
 檢束ヲ爲スガ如キハ行政執行法ノ精神ニ背馳スルヲ以テ嚴  
 ニ之ヲ避クルゴト

右訓令ス

昭和九年一月二十二日

内務大臣

○司法大臣訓令

司法省 刑事第一五七三五號

檢 事

司法警察官

捜査ニ付テハ法律ニ定メタル場合ノ外強制ノ處分ヲ為スコト  
ヲ得ザルハ言フ俟タザル所ナリ然ルニ近時捜査官吏往々ニシ  
テ行政執行法ニ依ル檢束ヲ利用シ數日ニ亘リ被疑者ヲ留置ス  
ルモノアリトノゴトヲ論議スル者ナキニ非ス 惟フニ是レ行  
政警察官ガ同法當該者ニ對シ一旦檢束ヲ加ヘタル後犯罪アル  
コトヲ發見シ司法警察官ノ手ニ於テ捜査ニ着手スルコトアル  
ヲ見テ右ノ如キ非難ヲ生ズルニ至リタルモノナルベレト雖、  
凡ソ捜査ヲ為スニ當リテハ固ヨリ人権ヲ尊重スバク若シ被疑  
者ヲ拘束スルニ必要アリト認メ刑事訴訟法ノ憲容セル強制ノ手

續ニ依ルコトヲ相當トスルトキハ其ノ方法ニ依據スバク濫リ  
ニ行政法上ノ處分ヲ利用スルガ如キコトアルベカラザルハ茲  
ニ絮説ヲ要セザル所ナレドモ右ノ如キ論議ノ行ハルルニ至リ  
タルニ由リテ觀レバ捜査ノ局ニ當ル者モ亦更ニ其ノ手續ニ用  
意ノ周到ナルコトヲ必要トス故ニ被疑者ヲ拘束スル場合ニ於  
テハ法規ヲ恪守シ苟モ非難ノ生ズルガ如キコトナキ様一層注  
意セラルベシ

右訓令ス

昭和八年十一月十日

司法大臣 小 山 松 吉

凡 未成年者飲酒禁止法中改正ノ件

一、法律案

(一) 未成年者飲酒禁止法中改正法律案ハ第五十一議會以來

衆議院ニ於テ議員ヨリ左部ノ通提出セラレタリ

イ 第五十一議會(大正十四年)ニ於テ衆議院議員山口政二

君外十二名ヨリ提案シ委員附録ヲ爲サズ議會ヲ省略シ

テ衆議院之ヲ可決シタルモ會期ノ最終日ニ當リタルヲ

以テ其ノ儘トナル

ロ 第五十二議會(大正十五年)ニ於テ衆議院議員竹原操一

君外十大名ヨリ提案シ委員會ニ於テ可決シタルモ本會

議ニ於テ否決セラル

ハ、第五十四議會（昭和三年）田中義隆君外五名ヨリ提出  
レタルモ上程ニ至ラズ

三、第五十六議會（昭和四年）ニ於テハ田中義隆君外六名  
及星島二郎君外六名ヨリ何レモ提出レタルモ委員會ニ  
於テ之ヲ否決レタリ

ホ、第五十八議會（昭和五年）ニ於テハ長尾半平君外十八  
名ヨリ提出シ委員會ニ於テ可決レタリ

ヘ、第五十九議會（昭和六年）ニ於テハ長尾半平君外二十  
四名ヨリ提出シ委員會ニ附託セラレタルモ委員會審査

終了ニ至ラズ

ト、第六十四議會（昭和八年）ニ於テハ丸山浪禰君外十二名  
ヨリ提出シ委員會ニ附託セラレタルモ委員會ノ審査終  
了ニ至ラズ

ク、第六十五議會（昭和九年）ニ於テハ栗原彦三郎君外十  
二名ヨリ提出シ委員會ニ附託セラレタルモ第一議會ニ  
於テ否決レタリ

(二) 第六十五議會ニ提出セル法律案及提出ノ理由

未成年者飲酒禁止法中左ノ通及正ス

一 未成年者飲酒禁止法レヲ一飲酒取締法レニ改ム

第一條第一項第三項及第二條中「未成年者」ヲ「二十歳未満ノ者」ニ改ム

第三條中「第一條第二項」ノ上ニ「第一條第一項」ノ規定ニ違反シタル者（但シ未成年者ヲ除ク）又ハレヲ加フ

附則

本法ハ昭和九年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

理由

現行未成年者飲酒禁止法ハ民法上ノ成年期ヲ限度トシテ通用セラルルモ心身ノ完熟ハ二十五歳以後ニ在リテ飲酒ノ惡習ニ陥リ易キハ寧ろ二十歳以前ニ在レバ直ニ法律ノ

目的トスル所ヲ達セントセバ現行法ヲ改正シテ普ク二十歳未満ノ者ニ適用スルコトト爲サザルベカラズ斯ノ如クスルトキハ青年團員軍隊學生ノ殆ド全齊ヲ禁止セシムルコトヲ得テ一面法律ノ勵行上ノ便宜ニ合スベシト謂フニ在リ

二、請願

第五十大議會

村岡文吉外十五名、大野享平、山邑太左衛門外四名、吉田忠ノ各酒造業者ヨリ提出ニ係ルモノハ何レモ未成年者飲酒禁止法改正案ハ基督教主義ニ依ル外來思想ニ捉ハレタルモ

ノミレテ我國情ニ適セズ若シ飲酒ノ樂風助成アリトセバ體  
健ナル宗教及普及セル教養ニヨリ矯弊セラルベキモノニシ  
テ法ヲ以テ強制スベキ性質ノモノニ非ズト謂フニ在リ衆議  
院ニ於テハ其ノ趣旨至當ナリトシテ之ヲ採擇セリ  
第五十九議會

衆議院ニ於テハ澤晴夫外六千二百三十五名外百六十五件ノ  
提出ニ係ルモノハ酒類ハ人類天賦ノ嗜好的飲料ニシテ古來  
我國ニ於テハ冠昏葬祭等ノ儀禮ニ供セラレ吾人生活上ノ慰  
安ニ將社交上常ニ採用セラレツツアリ一新論者ハ徒ニ其ノ  
過飲ニヨル弊害ノミヲ強調シテ善物視シ其ノ社會的效果ヲ

認ムルコトナク法ノ強制力ニ依テ之ヲ禁止セントスレノ法  
案ハ之ヲ否決スルノ途ヲ講ゼラレタレト謂フニ在リ  
衆議院ハ其ノ趣旨至當ナリト認メ之ヲ採擇セリ  
貴族院ニ於テハ澤晴夫外五千五百四十八名外四十七件ノ提  
出ニ係ル同趣旨ノ請願ハ願意ノ大体採擇スベキモノト議決  
セリ

### 第六十三議會

衆議院ニ於テ第五十九議會ト同一ノ趣旨ノ法制定及對ノ請  
願ヲ野坂清太郎外九名並ニ同一請願九件ヲ提出シ衆議院ハ  
其ノ趣旨至當ナリトシテ採擇セリ



身大十四議會ニ於テハ二十五歳未満飲酒禁止法制定反對ノ  
件ヲ採擇シニ二十五歳未満飲酒禁止法制定ノ件不採擇トナル

(1) 昭和五年一月岩手縣志愛禁酒會加藤久松外二百五十名

昭和五年十一月第七回全國教化事業關係代表者大會代表

者松井茂ヨリ提出ニ係ルモノハ何レモ満二十五歳以下飲

酒禁止法案ヲ帝國議會ニ提出セラレシコトヲ望ム満二十

五歳迄ハ必身ノ完全ナル發達ノ過程ニアルヲ以テ其ノ最

モ重要ナル修養期ニ於ケル飲酒ノ悪風ヲ除カレタレト謂

フニアリ

(2) 昭和五年二月秋田縣教育會長和田喜八郎ヨリ提出ニ係

ルモノハ未成年者飲酒禁止法ヲ更ニ延長シ學生生徒ノ飲

酒ヲ嚴禁シ其ノ毒ヲ未然ニ阻止セラレタレト謂フニ在

リ

三、之ニ對スル意見

飲酒ハ良習ニ非ズ又過度ノ飲用ハ保健衛生上有害ナルハ公

知ノ事實ナルヲ以テ本案提出ノ趣旨ニハ固ヨリ賛スル所ナ

リト雖左述理由ニ依リ其ノ執行頗ル困難ニレテ改正ノ實績

ヲ擧グ難キモノト認メラルヲ以テ本案ニハ賛成スルヲ得

ズ

(一) 現行法が未成年者ノミノ飲酒ヲ禁止スルハ飲酒ノ害ハ

心身ノ發達充分ナラザル未成年者ニ於テ殊ニ甚シカルベ  
ク又其ノ悪習ニ染ムノ弊ヲ成年期以前ニ於テ防遏スルハ  
最モ緊要ノコトニ屬スト察メタルニ因ルモノナリ

(二) 飲酒ノコトタル家室内ニ於テ行ハルル場合多ク爲之ガ  
取締ハ頗ル困難ナルノミナラズ其ノ徹底ヲ期スルノ餘警  
察權ニヨリ適當ニ私生活ノ自由ニ立入ルノ虞アリ且現行  
法ノ執行ニ當リテモ違反者必罰ヲ旨トセズ專ラ自發的ニ  
改過遷善ヲ促スノ方針ヲ採レリ即チ昭和六年中ニ於ケル  
違反件數一萬三千六百六十二件中謀論ニ止メタルモノ一  
萬三千三百八十五件ニレテ科料ニ處シタルハ僅ニ百三十

五件ニ過ギズ然ルニ本改正案ノ如ク更ニ成年者ヲモ取締  
ルコトトセンカキ之ガ執行ハ一層困難トナリ到底法ノ勵行  
ハ期シ難ク法ノ威信 失墜ノ結果延テ未成年者ノ飲酒取  
締ニ付テモ少カラザル支障ヲ來スノ虞アルモノト云ハザ  
ルベカラズ

三	滋	京	大	兵	奈	和	鳥	島	岡	廣	山	徳	香	愛	高	福	生	長	熊	大	宮	鹿	沖	合
賀	都	府	庫	良	取	根	山	口	長	川	郷	知	陽	資	崎	本	分	崎	長	長	見	録	計	
一	二	二	二	二	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
五	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三

北海	青	岩	宮	秋	山	福	茨	柳	新	神	警	午	新	石	富	宿	山	長	岐	淡	愛	
道	森	午	城	田	形	長	城	木	玉	葉	龍	葉	山	川	井	架	野	野	野	野	野	
一	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六
八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三

○未成年者飲酒禁止法違反罰  
 藤野縣 三止メクルモノノ器具没収  
 八七

(昭和七年中)

一〇、質屋取締法改正ノ件

(一) 沿革

質屋取締法改正ニ付テハ屢々之カ請願ヲ議院ニ提出シ或ハ  
 衆議院議員ヨリ改正法律案ヲ提出スル等多年ノ懸案タリ、  
 即チ第三十一議會ニ於テハ衆議院議員岡田榮君外ニ名提出  
 ノ改正案及第三十七議會ニ於テハ衆議院議員黒須龍太郎君  
 外四名提出ノ改正案ハ衆議院ヲ通過シタルモ貴族院ニ於テ  
 否決セラレ第五十六議會ニ於テハ衆議院議員鬼丸義齋君提  
 出ノ改正案ハ衆議院可決後貴族院ニ於テ審議未了トナリタ  
 リ尚第五十六議會ニ於テハ衆議院ニ對シ村上貫一外二百三

十一名ヨリ質屋取締法第十六條廢止ヲ武市民男外四十七名ヨリ同條改正ノ請願ヲ為シ衆議院ハ何レモ之ヲ至當ト認め採擇シタリ。

本法改正ニ付テハ當業者ハ屢々主務省ニ陳情スル所アリ又夙ニ各地ニ於ケル質屋同業組合、同聯合會及全國質屋聯合組合等ニ於テ改正促進ニ関スル協議會ヲ開催シ其ノ他當該地方選出ノ衆議院議員ニ之カ運動ヲ為ス等其ノ實現ヲ期シ居レリ

當局ニ於テモ本法ニハ相當ノ不備缺陷アルコトヲ認め第三十七議會ニ當リ黒須龍太郎君提出ニ係ル本法一部改正案カ貴族院ニ於テ審議セラレタル際政府ハ現行法カ明治二十八  
年ノ制定ニ係リ其ノ後民法ノ制定、刑法ノ改正等アリ之ト  
相關シテ不備缺陷ノ存スルアルヲ以テ法全體ニ涉リテ改正  
ヲ為スノ必要アル旨ヲ言明シ貴族院ハ政府ノ提案ヲ條件ト  
シテ衆議院案ヲ否決シタリ、爾來當局ハ審議ヲ重シ質屋業  
法案ヲ作成シ第四十二議會ニ提出ノ見込ヲ以テ閣議ニ提出  
シタルコトアルモ議會解散ノ為提案スルニ至ラザリシモノ  
ナリ

(二) 質屋取締法改正意見ニ關スル要綱

一、法律案

1. 第三十一議會衆議院可決案

現行法ニ於テハ質屋、質置主ニ對シ例外ナク質札又ハ通帳ヲ交付スヘキコトヲ要求セルヲ「但シ命令ノ定ムル所ニ依リ質札又ハ通帳ヲ交付セサルコトヲ得ル旨ノ規定ヲ加フ

2. 第三十七議會衆議院可決案

1. 現行法ニ於テ營業者カ質取ヲ為ストキニハ質置主ニ於テ質入シ得ヘキ權利ヲ有スルコトヲ「確認シタル後」之ヲ為スヘキコトヲ命セルヲ「適當ナル注意ヲ以テ質入シ得ヘキ權利ヲ有スルコトヲ認メタル後」

之ヲ為スヘキ旨ニ改ム

ロ、現行法ニ於テ營業者ハ質置主ニ對シ例外ナク質札又ハ通帳ヲ交付スヘキコトヲ要求セルヲ「命令ノ定ムル所ニ依リ質札又ハ通帳ヲ交付セサルコトヲ得ル」例外規定ヲ設ク

ハ、現行法ニ於テハ營業者カ質物ノ所有權ヲ取得スル時期ノ明示規定ナキヲ以テ新ニ「流質期限經過ノ時ヲ以テ質物ノ所有權ヲ取得スルトノ規定ヲ置ク

ニ、現行法ニ於テハ徵收シタル質物（遺失物、盗品）ニシテ被害者ノ知レサル場合之ヲ被徵收者ニ還付ス

ルトキハ「徴收」シタル日ヨリニケ年ノ後ルトアルヲ  
「盗難若ハ遺失」ノ日ヨリニケ年ヲ経過シタル後ニ  
改ム

3. 第五十六議會衆議院可決案

現行法第十六條「質物」ニテ遺失物若ハ盗品ニ係ルト  
キハ警察官之ヲ徴收シ被害者ニ還付スルコトヲ得若シ  
被害者知レサルトキハ徴收シタル日ヨリニ首年ノ後徴  
徴收者ニ還付スヘシトノ旨ノ規定ヲ削除ス

二、大正八年閣議提出案（後出回参照）

1. 現行法ニ於テハ質権ノ目的物「物品」トアルヲ「動

産又ハ有價證券」ニ改ム

2. 現行法ニ於テ營業所外ノ營業ヲ禁止セルヲ質入主ノ

住所ニ於テモ為スコトヲ得シム（現行法ニ）

3. 現行法ハ營業者カ質置主ニ於テ質入シ得ヘキ權利ヲ

有スルコトヲ「確認」シタル後質取ヲ為スヘキコトヲ

命セルヲ「適當」ノ注意ヲ以テ其ノ物品ヲ質入シ得ヘキ

權利アリト認メタル」後之ヲ為スヘキ旨ニ改ム（現行

法ニ）

4. 現行法ニ於テ營業者ニ對シ例外ナク質札又ハ通帳ヲ

質置主ニ交付スル義務ヲ負擔セシメ居ルヲ命令ノ規定

アル場合ニ於テハ之ヲ要セサルコトト為ス（現行法五）

5、現行法ニ於テ傳染病毒ニ汚染シタル物品ノ質取ヲ為シタル場合ノ措置及之ニ關スル警察官憲ノ強制方法ニ付キ規定存スルヲ削除ス

6、現行法ニ於テ元金拾圓ヲ超エルモノニ對スル利率ノ規定存セサルヲ三十圓以下ニ對スル利率ヲ定メ且利子ニ關スル期間計算方法等ヲ明示ス（現行法九）

7、流質期限ニ關スル制限規定ヲ新ニ設ク

8、現行法ノ贓物品竊ニ關スル規定ヲ削除ス（現行法一

四）

9、現行法ニ於ケル検査、差押ノ對象ハ犯罪嫌疑物品、遺失物、傳染病毒汚染物ニ限定セシメ必要ト認めタルトキハ汎ク質物ニ對シ之等ノ處分ヲ為スコトヲ得シム

（現行法一五）

10、現行法ニ於テ帳簿差出期間ヲ十日以内ト為セルヲ七日以内ト改ム（現行法一五）

11、現行法ニ於ケル「質物」ニシテ遺失物又ハ盗品ニ係ルトキハ警察官之ヲ徵收シ被害者ニ還付スルコトヲ得ルトアルヲ「盗品又ハ遺失物」ナルコトヲ確認シタルトキハ流質期限内ニ限り之ヲ為スコトヲ得シメ（現行法



一六、且新シ「質入主カ民法第九十四條ノ占有者ニ該當スル場合及營業者カ民法第九十二條ノ規定ニ依リ質権ヲ取得シタルモノニシテ盗難遺失ノトキヨリ二年ヲ経過セル場合ニ於テハ被害者ノ知レサルトキニ限リ遺失又ハ盗難ノ日ヨリ二年以内ト認ムル期間内該質物ノ保管ヲ命シ得ルノ外徴收還付ノ処分ヲ為スコトヲ禁止スレル旨ノ規定ヲ加フ

一七、現行法ニ於テハ法人ニ關スル規定ヲ缺ケルヲ以テ新ニ該當規定ヲ設ク

三、營業者ノ陳情又ハ請願セシ改正希望案

一八、徴收還付ノ処分ヲ為シ得ルモノハ「盗品ノ疑ヒアルモノ」ニ限リ「遺失物」ニ付テハ之ヲ為シ得サル様改ムルコト

一九、「徴收」處分ヲ廢シ單ニ「保管」ヲ命スル様改ムルコト

二〇、被害者ニ還付シタルトキハ被害者ヨリ營業者ニ貸金ノ全額又ハ半額ヲ返還セシムルコト

二一、質屋ニ於テ違法行為アリタル場合ニ限リ徴收スルヲ得ル様改ムルコト

二二、質屋カ善意無過失ノ場合ニ徴收還付ノ処分ヲ為シ

タルトキハ被害者ヨリ貸金ノ半額ヲ辨償セシムルコト

ト 盗品タル裁判確定シ若ハ遺失物タル事實判明シテ

ルトキ被害者ノ請求ニ依リ貸金ノ半額ヲ辨償セシメ

テ被害物品ヲ還付スルコト

ト 被害者知レサルトキニ被徴収者ニ還付スル場合ノ

「二箇年後」ハ長キニ失スルヲ以テ「六箇月後」ニ

改ムルコト

2. 1. 質入シ得ヘキ権利ヲ有スルコトヲ「確認」シタル

後質取ヲ為サシムル規定ハ酷ナルヲ以テ「恩料」ニ

改ムルコト

ロ 前示「確認」ヲ「認メ」ニ改ムルコト

3. 「住所氏名ノ詳ナラサル者」ヨリ質取ヲ為スコトヲ

禁遏スル規定ハ酷ナルヲ以テ「住所氏名ヲ明示セサル

者」ニ緩和シ且通帳ヲ持参スル者ニ對シテハ自由ニ質

契約ヲ為スコトヲ得シムル様改ムルコト

4. 差押ノ対象タル「遺失物、犯罪嫌疑物、傳染病毒汚

染物」ハ廣キニ失スルヲ以テ「犯罪嫌疑物」ノミニ限

ルコト

5. 十圓ヲ超エルモノニ對スル利率ノ規定ヲ新ニ設クル

6、1、流賃期間満了ノトキヲ以テ質屋カ其ノ所有権ヲ取得スル旨ノ明示規定ヲ置クコト

ロ、民法第百九十三條ノ規定ハ質屋ニハ適用セサル旨ノ規定ヲ新ニ置クコト

ク、質札又ハ通帳ノ交付ヲ強要スルノ規定ハ酷ナルヲ以テ特定ノ場合ニ於テハ之ヲ交付セサルモ差支ナキ旨ヲ新ニ規定スルコト

カ、質物ノ目的物ヲ動産ニ限ルコト

ク、質物ノ評價ヲ為ス場合ハ營業所外ニ於テモ之ヲ為シ

得ルコトヲ得シムルコト

10、 贓物ノ品觸ニ關スル規定ヲ削除スルコト

11、 品觸ニ相當スル物件ヲ覺知シタルトキノ届出義務期間ヲ六箇月レヲ三箇月レニ改ムルコト

12、 傳染病毒汚染物ノ消毒ヲ命シタルトキ質屋之ニ從ハ

サル場合「官没」スルノ規定ハ實益ナキヲ以テ「警察

官消毒」ヲ行ヒ其ノ費用ヲ質屋ヨリ徴收スレト改ムルコト

ト

13、 轉賃ノ制限及禁止ニ関スル規定ハ削除スルコト

14、 營業ハ質屋組合長ニ於テ適當ト認メタル者ニ許スコト

15、 營業停止期間内ニ於テモ停止處分ヲ解除シ得ル旨ノ  
規定ヲ新ニ設クルコト

16、 質屋ノ缺格條件ヲ緩和スルコト

17、 違反ニ對シテ悉ク罰金刑ヲ科スルハ酷ナルヲ以テ特

定ノ違反ニ對シテハ科料刑ニ處シ得ル様改ムルコト

18、 流質期限ヲ法律ニ明示スルコト

19、 同業組合ニ關スル規定ヲ設クルコト

20、 訴願及行政訴訟ヲ認ムルコト

(三) 本法改正ニ關スル意見

大正八年成案ノ質屋業法案（既述沿革ノ部参照）ハ爾後著  
シキ賦限ノ變動アリ當時ノ案ヲ以テ直ニ之ヲ行フニ適セサ  
ルノ事情ヲ招徠シ又請願建議陳情ニ現ハレタル希望要綱或  
ハ議員提出法律案ノ内容等モ警察取締ノ見地ヨリシテ之カ  
容否ニ付審議考慮ヲ要スルモノアリ、殊ニ利子、流質期間  
等ノ如ク當事者ニ甚大ナル利害關係ヲ有スル事項尠カラズ  
旁々現下賦限ノ著シキ不況ニ徴シ今直ニ之ヲ改正スルハ實  
際上相當困難ナルモノアルヲ以テ賦限ノ安定ヲ俟テ之ヲ改  
正スルノ策ヲ得タルモノト信ス

參考

(一) 昭和四年十二月八日東京上野精養軒ニ於ケル全國質屋聯合會秋季大會可決事項要旨

一 現行質屋取締法ハ明治二十八年ノ制定ニシテ實情ニ適セズ之カ改正ノ必要アリ

二 質屋ニ對スル法律ノ名稱ハ『質屋法』トスルコト

三 現行質屋取締法第十六條ヲ改正シ『質物ニシテ盜品若

ハ遺失物タル事實確定シタルトキハ質屋ハ流質期限内ニ

限リ被害者ノ請求ニヨリ、貸付金ノ半額ノ辨償ヲ受ケ其ノ物ヲ返還スヘシ

質入主カ民法第九十四條ノ占有者ナルトキ又ハ質物カ

刑法第二百四十四條ノ犯罪ニ因ル物ナルトキハ質屋ハ流

質期限内ニ限リ被害者ノ請求ニヨリ、貸付金ノ全額ノ辨償

ヲ受ケ其ノ物ヲ返還スヘシ』トスルコト

(二) 昭和五年十一月二十日東京上野精養軒ニ於ケル全國質屋

聯合會第四回定期總會可決事項要旨

一 現行質屋取締法第九條ヲ改正シ『質屋利子ハ貸金拾圓

ヲ超過セサル場合ハ一ヶ月百分ノ三、貸金拾圓ヲ超過ス

ル場合ハ一ヶ月百分ノ二・五トシ之ニ違反セル質契約ハ其

ノ違反部分ニ限リ無効』トスルコト

一、現行質屋取締法第十六條ヲ撤廃スルコト

一一 古物商取締法改正ノ件

(一) 沿革

古物商取締法ノ改正ニ付テハ請願書、建議書ヲ衆議院ニ提出シ或ハ主務大臣ニ陳情シ又ハ議員ヨリモ一部改正ノ法律案ヲ提出スル等多年ノ懸案タリ

古物商同業者有志ハ大阪市ニ古物商取締法改正期成同盟會ヲ組織シ各地ニ支部ヲ設置シテ連絡ヲ採リ且道府縣又ハ郡市等ニ於ケル古物商聯合會又ハ古物商組合等ニ於テモ同業者ヲ糾合シテ古物商取締法改正運動促進ニ關シ會議ヲ開催シ或ハ其ノ實行方法ニ付テ指示ヲ發シ其ノ他款故ヲ辿リテ

代議士ニ運動シ當省ニ請願ヲ為ス等大ニ努ムル所アリ議會  
關係ニ於テハ第三十七議會ニ衆議院議員米田 實君ヨリ一  
部改正案ヲ提出シ衆議院ハ之ヲ可決シタルモ貴族院ニ於テ  
否決シ第五十六議會ニ於テハ衆議院議員鬼丸義齊君ヨリ一  
部改正案ヲ提出シ衆議院之ヲ可決シ貴族院ニ回付シタルモ  
審議未了トナリタリ尚第五十六議會ニ於テ貴衆兩院ニ提出  
セラレタル請願六件何レモ其ノ趣旨ヲ至當ナリトシテ兩院  
ハ之ヲ採擇セリ

第五十九議會ニ於テハ衆議院議員石原善三郎君外二名ヨリ  
一部改正案ヲ提出シ衆議院ハ之ヲ可決シ貴族院ニ送付シタ

ルガ貴族院ニ於テハ之ヲ委員會ニ附託シタルモ審査ニ著手  
セス其ノ儘トナリタリ尚同議會衆議院ニ於テ請願一件アリ  
同院ニ於テハ之ヲ採擇シタリ

第六十四議會ニ於テハ衆議院議員山本芳治君外二名ヨリ第十  
七條中改正法律案ヲ提出シタル處衆議院ニ於テ一部修正ノ  
上通過シ貴族院亦之ヲ可決シテ之カ改正ヲ見タリ。(後掲)

(二) 古物商取締法改正希望要綱

(1) 第五十六議會衆議院可決改正法律案

(1) 現行法第十七條「古物商ノ買受又ハ交換シタル物品  
ニシテ遺失物若ハ贓物ニ添ルトキハ營業者ヨリシタル

ト否トヲ問ハス警察官ニ於テ之ヲ徵收シ被害者ニ還付  
スルコトヲ得若シ被害者知レサルトキハ徵收シタル日  
ヨリニ箇年ノ後被徵收者ニ還付スヘシノ規定ヲ削除  
ス

(H) 現行法第十三條ニ於ケル「警察官ハ犯罪ノ嫌疑アル  
物品若ハ遺失物又ハ傳染病毒汚染ノ物品アリト認ムル  
トキハ何時タリトモ物品及帳簿ノ検査ヲ為シ時宜ニ依  
リ其ノ物品ヲ差押ヘ又ハ帳簿ヲ差出サシムルコトヲ得  
」  
中期間ニ對スル制限ナキヲ以テ「時宜ニ依リ」ノ下ニ  
「十日以内ニ限り」ヲ加ヘ之ヲ為シ得ル様改ム

(2) 第五十六議會請願

貴族院

戸田彌七君外四百四十二名ノ提出ニ係リ其ノ請願ハ古物  
商取締法ハ時勢ニ伴ハサル不備不完ノ點尠カラサルニ依  
リ今日ノ實情ニ照ラシ適當ニ改正セラレタシトノ趣旨ニ  
シテ貴族院ハ願意ノ大體ヲ採擇スヘキモノト議決セリ。

衆議院

戸田彌七君外四百七十二名、飯野祐吉君外三百二十五名  
福島伊助君外四十名ノ提出ニ係ルモノハ何レモ古物商取  
締法ハ時勢ニ伴ハサル不備不完ノ點尠カラサルヲ以テ今



日ノ實情ニ照ラシテ適當ニ改正セラレタシトノ趣旨、林藤十郎君外一千七百四十四名ノ提出ニ係ルモノハ古物商取締法第十七條ニ掲クル遺失物又ハ贓品ニ付テハ警察官ニ於テ之ヲ徵收シ被害者ニ還付スルコトヲ得ル旨ノ規定ヲ廢止シ且犯罪嫌疑物品ノ差押期間ヲ十日ニ限定セラレタシトノ趣旨、武市民男君外四十一名ノ提出ニ係ルモノハ遺失物及贓物ヲ無償徵收シテ之ヲ被害者ニ還付スル旨ノ現行規定ヲ改正シ買受又ハ交換ノ際古物商ニ於テ其ノ情ヲ知ラサルトキハ其ノ損害額全部又ハ一部ヲ被害者側ニ負擔セシムルコトトセラレタシトノ趣旨ニシテ衆議院ニ

於テハ何レモ之ヲ採擇シタリ

(3) 第五十九議會衆議院可決改正法律案

現行古物商取締法第十七條ニ「古物商ノ買受又ハ交換シタル物品ニシテ遺失物若ハ贓物ニ係ルトキハ營業者ヨリシタルト否トヲ問ハス警察官ニ於テ之ヲ徵收シ被害者ニ還付スルコトヲ得若被害者知レサルトキハ徵收シタル日ヨリニ箇年ノ後被徵收者ニ還付スヘシレノ次ニ「前項ノ場合ニ於テ古物商情ヲ知ラスシテ買受ケ又ハ交換シタル物品ニ付テハ被害者ハ古物商ニ對シ其ノ支拂ヒタル代價又ハ交換シタル物品ノ價額ニ相當スル補償ヲ為

スヘシヲ加フ。

(4) 第五十九議會衆議院請願

三ッ橋彦次郎君外四百五十九名ノ提出ニ係リ其ノ要旨ハ  
現行古物商取締法ハ三十六年前ノ制定ニ係リ今日ノ世態  
民情ニ適セサルハ勿論全國營業者ハ常ニ之カ爲取引上ニ  
脅威ヲ感シ不測ノ損害ヲ蒙ルコト歎カラス永年同業者ノ  
苦痛トスル所ナリ依テ速ニ同法ヲ改正セラレタシト謂フ  
ニ在リ。

(5) 第六十三議會提出法律案

現行古物商取締法第十七條ニ「古物商ノ買受ケ又ハ交換

シタル物品ニシテ遺失物若ハ贓物ニ係ルトキハ營業者ヨ  
リシタルト否トヲ問ハス警察官ニ於テ之ヲ徵收シ被害者  
ニ還付スルコトヲ得被害者知レサルトキハ徵收シタル日  
ヨリニ箇年ノ後被徵收者ニ還付スヘシ」ノ次ニ

「前項ノ場合ニ於テ古物商善意無過失ニ買受ケ又ハ交換  
シタル物品ニ付テハ被害者ハ古物商ニ對シ其ノ支拂ヒタ  
ル代價又ハ交換シタル物品ノ價格ニ相當スル補償ヲ爲ス  
ヘシ」ヲ加フ

(6) 以上ノ外陳情、請願等ニ現ハレタル改正希望事項

(1) 免許行政官廳管轄以外ニ於テ取引ヲ爲シタルトキニ

ヲ届出ツルノ規定ヲ削除スルコト（法第廿四條）

(四) 住所氏名ノ詳ナル者カ證人タルトキ又ハ警察官ノ認  
可ヲ受ケタルトキヲ除クノ外住所氏名ノ不詳ナル者ヨ  
リ物品ノ買受又ハ交換スルコトヲ禁止セル現行規定ヲ  
改正シ公務所ノ戸籍又ハ印鑑ノ證明ヲ有スル者ニ對シ  
テモ亦買受又ハ交換ヲ為スコトヲ得シムルコト（法第廿七  
條）

(ハ) 傳染病毒汚染シタル物品ノ買受又ハ讓受禁止ニ關  
スル規定迄之等物品ノ消毒及沒收ニ關スル規定ヲ廢止  
スルコト（法第廿八條）

(ニ) 贓物ノ品觸ニ關スル規定ヲ廢止スルコト（法第廿九條  
第十條）

(ホ) 帳簿廢棄ヲ要許可事項ト為セルヲ削除シ新ニ帳簿ヲ  
十年間保存スヘキ規定ヲ設クルコト（法第卅二條）

(ハ) 警察官ハ犯罪ノ嫌疑アル物品若ハ遺失物又ハ傳染病  
毒汚染ノ物品ヲ差押フルコトヲ得ル旨ノ現行規定ヲ犯  
罪ノ嫌疑アル物品ノミヲ差押フルヲ得ルコトニ改メ且  
事件ヲ檢査局ニ送致セサル場合ニ於テハ其差押期間ヲ  
十日ニ限定スルコト（法第卅三條）

(ト) 買受又ハ交換シタル物品ニシテ遺失物若ハ贓品ニ係

ルトキハ警察官ニ於テ之ヲ徴收シ被害者ニ還付シ得ル  
 ノ現行規定ヲ改正シ盗品タルコトノ裁判確定シタル場  
 合ニ於テノミ上述ノ處分ヲ為スコトヲ得シメ而モ此ノ  
 場合ニ於テモ古物商側ニ於テ過失ナカリシトキハ被害  
 者ハ其ノ對價ヲ賠償スルヲ要スルコトトナスコト（法  
 第十七條）

(4) 或ハ前示(1)ニ記載セル徴收還付ニ關スル規定ヲ全然  
 撤廃スルコトヲ希望セルモノアリ

(4) 其ノ他組合加入強制ニ關スル規定、營業ヲ免許スヘ  
 キ資格及免許取消ノ場合ヲ明示スル規定、市場糶賣ニ

關スル統一的规定訴願及行政訴訟ニ關スル規定、法人  
 ニ關スル規定等ヲ何レモ新設セラレタキコト。

(7) 第六十四議會可決改正法律案

第六十四議會ニ於テハ山本芳治君外ニ名ヨリ同法中左記  
 改正案ヲ提出ス。

第十七條中「贓物」ヲ「盜品」ニ改メ同條ニ左ノ一項ヲ  
 加フ

前項ニ依リ被害者ニ還付セラレタル場合ニ於テ古物商ノ  
 情ヲ知ラステ買受ケ又ハ交換シタル物品ニ付テハ被害  
 者ハ古物商ニ對シ其ノ支拂ヒタル代金又ハ交換シタル物

品ノ價格ヲ補償スヘシ

然ルニ衆議院ニ於テ

第十七條中「贓物」ヲ「盜品」ニ改ム

ト修正シ前項以下ノ但書ヲ削除シタル上可決シ政府亦之

ニ賛成シタル為兩院ヲ通過シタリ。

(三) 右ニ關スル意見

本法ハ明治二十八年ノ制定ニ係リ相當不備缺陷ノ存スル在  
ルヲ以テ法全體ニ涉リ之カ改正ノ要アリ且質屋取締法ノ如  
ク賦與不況ノ故ヲ以テ之カ實行ヲ延期スルノ理由ニ至シト  
雖質屋取締法ノ改正ヲ企テス獨リ本法ノミノ改正ヲ為スハ

適當ニ非サルヘク質屋取締法改正ノ際同時ニ商取引ノ安定

ヲ阻害セス取締上ノ不備缺點ヲ補正スルニ充分ナル改正案

ヲ得ルニ努メントス

(参考)

決議

廣州市所在開老記念廣漢會館ニ於テ  
古物商取締法改正期成同盟會大會

現行古物商取締法ハ實ニ三十六年前ノ制定ニ係リ其ノ後一  
部修正アリタリト雖重要部分ハ舊態依然トシテ何等改ムル  
所ナリ現今ニ及ヘリ而シテ著シク進歩且發達シタル時代ノ  
要求ニ添ハサル不完全且不合理規定多シトセス故ニ速ニ適  
宜改正ニ吾々古物營業發展ヲ圖ルハ誠ニ緊急ノ要務ニ屬ス  
本大會ハ大ニ輿論ヲ喚起シ政府當局ヲ鞭撻シ立法府ヲ勸カ  
シ以テ此ノ惡法改正ノ目的ヲ貫徹セムコトヲ期ス

昭和五年七月四日

古物商取締法改正期成同盟會大會

一、公娼制度ニ関スル件

一、議會関係

公娼制度ノ制限又ハ廢止ニ関スル法律案ノ沿革

第五十議會ニ於テハ衆議院議員松山常次郎君提出、第

五十二議會ニ於テハ衆議院議員松山常次郎<sup>昭</sup>外五名提出

第五十六議會ニ於テハ衆議院議員安部磯雄君外三名提

出、第五十八議會ニ於テハ衆議院議員三宅<sup>昭</sup>外六名提

出、各法律案ハ何レモ衆議院ニ於テ否決、衆議未了、日

程ニ上リタルモ院議ニ附スルニ至ラザリシモノナリ

第五十九議會ニ於テハ衆議院議員三宅<sup>昭</sup>君外十名提出

ノ公娼制度廢止ニ関スル法律案ハ衆議院ニ於テ委員會  
 附託トナリ委員會ニ於テハ之ヲ否決シタルモ其ノ際政  
 府ハ笑婦ニ関スル調査會ヲ設ケ速ニ其ノ對策ヲ樹立ス  
 ベシトノ希望決議ヲ爲シ同院本會議ニ於テハ右希望決  
 議ニ觸ルルコトナクシテ該法律案ヲ否決シタリ  
 之、法律案

第五十議會(大正十四年) 提出法律案(衆議院否決)

「何人ト雖モ新ニ娼妓ト爲リ又ハ娼妓稼ノ爲ニスル貸  
 座敷營業ヲ爲スコトヲ得匹

第五十二議會(大正十五年) 提出法律案(衆議院否決)

第一條 何人ト雖新ニ娼妓稼ノ爲ニスル貸座敷營業ヲ  
 爲スコトヲ得ス

現ニ右營業ヲ爲セル者ハ本法施行ノ際ニ於ケル娼妓  
 ノ數ヲ増加スルコトヲ得ス

第二條 何人ト雖昭和七年五月一日ヨリ娼妓稼ヲ爲シ

又ハ娼妓稼ノ爲ニスル貸座敷營業ヲ爲スコトヲ得ス

第三條 娼妓稼ノ爲ニスル貸座敷營業ニ對シテハ前條

ニ依リ右營業ヲ廢止スル際勅令ノ定ムル所ニ依リ補

償スルモノトス

第五十六議會(昭和三年) 提出法律案(衆議院否決)

第一條 何人ト雖新ニ娼妓稼ノ爲ニスル貸座敷營業ヲ爲スコトヲ得ス

第五十八議會（昭和五年）提出法律案

（日程ニ上リタルモ院議ニ附スルニ至ラズ）

第一條 何人ト雖モ新ニ娼妓名簿ニ登録シ又ハ娼妓稼ノ爲ニスル貸座敷營業ヲ爲スコトヲ得ス

第二條 本法施行ノ際現ニ娼妓タリ又ハ娼妓稼ノ爲ニスル貸座敷營業ヲ爲セル者ハ昭和十年五月一日ヨリ之ヲ爲スコトヲ得ス

第五十九議會（昭和五年）提出法律案（衆議院否決）

第一條 何人ト雖新ニ娼妓名簿ニ登録シ又ハ娼妓稼ノ爲ニスル貸座敷營業ヲ爲スコトヲ得ス

### 一 政府ノ意見

我國公娼制度ハ保安並ニ衛生ノニ理由ニ基ク歴史的存在ナリ所謂遊廓業者ハ昭和八年未現在ニ於テ一萬二百八十人娼妓數四萬九千三百二人貸座敷雇人ハ其ノ數二萬六千二百七人ヲ算ス

公娼制度ノ存スルコトハ主義トシテ歡迎スベキコトニ非ス政府ニ於テモ公娼廢止ニ關スル適切ナル善後對策ヲ得ルニ於テハ少スシモ現制度ヲ保持セントスルモノニ非ス依テ政府ニ於テハ公娼制度ニ對シ善處スルガ爲目下慎重審議研究中ニ屬ス



一、公娼廢止ノ理由

若シ政府ガ公娼ヲ廢止スルトセバ其ノ理由五ノ如シ  
一、國家ガ規制ヲ設ケテ娼妓ノ存在ヲ認ムルハ社會風教上  
乃至ハ人道上ヨリシテ好マシカラザル處ニシテ政府ハ  
曩ニ明治三十三年娼妓取締規則制定ノ當初貸座敷免許地ハ  
設、移轉、擴張ニ對シ消極的方針ヲ採リ貸座敷免許地ハ  
從來ノ儘据置キ將來新設移轉若シクハ擴張ノ場合ハ内  
務大臣ニ稟伺ヲ求メルコトトセリ之カカル存在ヲ最少  
限度ニ止メムトスルノ拒否態度ノ宣明ニ外ナラス其ノ  
後文運ノ進展ニ伴ヒ社會惡ゾル賣淫ヲ公許スルハ人倫

大本タル男女道德觀念ヲ弛緩セシメ延テ婦女賣買ヲ促  
シ之ガ公許ハ然ルベカラザル状態ニ立ケ至レリ

口現在我國ノ醜業ニ従事セルモノノ數ハ公娼ノ數ニ數倍  
セル狀況ナリ醜業婦ノ存在ハ素ヨリ望マシキ事ニ非ズ  
之ガ絶滅ヲ期スルコトヲ以テ理想トスルモ實際ノ狀況  
ヨリスレバ之ヲ絶滅掃蕩スルヲ得ザルハ吾界其ノ軌ヲ  
一ニスル處ナリトス

然ルニ我國ガ公娼及私娼ノニヲ有スルコトハ極メテ甚  
ク蓋口其ノ多數タル私娼ノ一元ニ統一シ社會惡トシテ  
最少限度ノ存在ヲラシムルニ然カザルナリ

八公娼制度ヲ廢止スル場合ト雖モ花柳病豫防成績ノ低下  
セザル様措置スベキハ勿論ニシテ之カ廢止ニ依リ<sup>テ</sup>花柳  
病ノ蔓延ヲ招来スルカ如キ虞ナカラシムヘキヲ以テ花  
柳病豫防上ノ理由ヲ以テ公娼制度ヲ存置セムトスルノ  
議論ハ其ノ理由乏シ

### 一山形縣ノ狀況

山形縣ニ於テハ婦女身賣防止ノ徹底ヲ期スルガ爲妻妓、娼  
妓、酌婦等紹介營業取締規則ヲ改正シ紹介業者紹介ノ依頼  
ヲ受ケタル時ハ其ノ都度求職者並ニ其ノ親戚者又依頼ヲ受  
ケタル職業ノ種類ヲ求職者住所地所轄警察署ニ届出ヲナサ  
シメ其ノ届出アリタルトキハ保護措置ヲ講スルト共ニ娼妓  
名簿登録申請又稼業年限延長申請ニ対シテハ特ニ慎重ナル  
調査ヲ爲シ事情止ムヲ得ザルモノヲ除クノ外許可セザル方  
針ヲ定メタリ

右ハ娼妓名簿ノ登録ヲ拒否シタルモノニ非スシテ悪周旋業

者ノ誘惑父兄及本人ノ無自覺、虚榮等ニ出テタル者ニシテ  
 謂レナク醜業ニ従事スルノ要ナキ婦女ニ對シテハ適當ナル  
 職業ヲ斡旋セントスルニ外ナラズ從テ此方針採用後ト雖眞  
 ニ止ムヲ得サル者ニ對シテハ娼妓名簿ノ登録ヲ爲シ居レリ  
 稼業年限ノ制限ニ付テハ各廳府縣共之ガ取締ヲ行ヒツツア  
 ル處ニシ前借ノ残存ヲ理由トシテ長ク稼業ニ従事セシムル  
 ハ好マシカラザルコトナルニ依ル

一、廢娼縣ノ狀況

ノ群馬縣ニ於テハ明治二十四年九月十二日廢娼ヲ断行シ其  
 ノ後明治三十一年十一月十八日草刈知事時代公娼ヲ復活

シタルモ輿論之ニ反對シ復活後七日ニシテ同知事ハ免官

トナリ後任古庄知事任官ノ當日即チ同年十一月二十四日

付再度公娼ヲ廢止シ今日ニ及ベリ

ノ埼玉縣ニ於テハ明治五年廢娼令断行後許可ヲ受クルコト

ナク營業ヲ續ケ其ノ後日根縣令ニ對シ正式ニ營業許可ノ

願出ヲ爲シタル處之ヲ拒否セラレタリ明治九年熊谷縣廢

止セラレテ埼玉縣ニ合併セラレタル結果本庄深谷ノ兩町

ニ於ケル貸座敷ハ其ノ儘存續セラレタル處昭和五年十二

月三十日自發的廢業ヲ爲シ全縣廢娼ノコトナル

ノ秋田縣ニ於テハ昭和八年六月三十日廢娼ニ貸座敷營業者

ハ料理屋娼妓ハ酌婦ニ轉向セリ

4.長崎縣ニ於テハ長崎市稻佐遊廓ノ料理屋轉向ヲ契機トシ

テ昭和九年七月七日全縣ノ廢娼ヲ完了セリ

一、地方議會ニ於ケル公娼制度廢止ノ議決

地方議會ニ於テ公娼制度廢止建議案ヲ決議ノ上之カ意見

書ヲ提出セル府縣左ノ如シ

昭和三年十二月通常縣會 埼玉縣 福島縣 秋田縣

昭和四年十二月通常縣會 福井縣 新潟縣

昭和五年十二月通常縣會 神奈川縣 長野縣

昭和六年十二月通常縣會 山梨縣

昭和七年十二月通常縣會 岩手縣 宮崎縣

尚京都府ハ昭和四年一月茨城縣ハ昭和六年十一月同報旨

ノ提案アリタルモ賛成有少ク決議ニ至ラズ

一、娼妓最低年齢引上問題

現行内務省令娼妓取締規則ハ娼妓最低年齢ヲ滿十八歳ト

セルニ對シ千九百二十一年ノ婦人及児童賣買禁止ニ關ス

ル國際條約(後出第四参照)第五條ハ婦人ノ保護年齢ヲ

滿二十一歳未満トス故ニ娼妓最低年齢ノ滿十八歳ヲ

滿二十一歳ニ改メ以テ國際關係ノ權衡ヲ得シムベシト

ノ請願ハ從來數次衆議院ニ提出セラレタリ然レトモ前記

國際條約ハ醜業婦ノ國際取引ヲ防遏スルヲ目的トスルモ  
 ノニシテ直接國內制度ヲ其ノ対象トスルモノニ非サルヲ  
 以テ彼是一致セシムルヲ要スルモノニ非ス殊ニ娼妓手齡  
 ヲ引上クルトキハ其ノ年齡ニ達セサル貧家ノ子女ヲ驅リ  
 テ私娼ノ群ニ入ラシムルコトナルヘク又却テ之カ爲益々  
 娼妓稼業廢止ノ年齡ヲ晚トシムルノ虞ナキニ非ス旁々最  
 低年齡ヲ現在ノ儘トシ保護取締ヲ厚クシ弊害ノ更除ニ努  
 メムトス

一、婦人及兒童賣買禁止ニ関スル國際條約關係

一、千九百四年五月巴里ニ於テ英、佛、独、等歐洲十ニヶ國代

表者ノ間ニ醜業ヲ行ハシムル爲ノ婦女賣買取締ニ関スル  
 國際協定ヲ議定シ次テ千九百十年前示諸國並ニ伯利西爾  
 國代表者ノ間ニ醜業ヲ營マシムル爲ノ婦女賣買禁止ニ  
 関スル國際條約ヲ締結シタリ前者ハ國際的婦女賣買ニ対  
 スル行政上ノ取締ヲ主眼トシ後者ハ主トシテ該行爲ヲ犯  
 罪トシテ後者ハ主トシテ該行爲ヲ犯罪トシテ處罰スヘキ  
 コトヲ約ス

二、対独平和條約第二百八十二條及國際聯盟規約第二十三  
 條ノ規定ニ基キ千九百二十一年國際聯盟理事會主催ノ  
 下ニ帝國ヲ始メ三十四ヶ國代表ハ壽府ニ於テ國際會議

ヲ周催シテ婦人及兒童賣買禁止條約ヲ締結シ千九百四  
年ノ決定並ニ千九百十年ノ條約ノ趣旨ヲ貫徹スルコト  
トシタリ

3. 大正十四年九月前示婦人及兒童賣買禁止條約カ枢府ニ  
諮詢セラレタルニ枢府ニ於テハ帝國カ

(1) 該條約ニ於テ制限年齢ヲ二十一歳ト規定セルニ對シ之  
ニ留保ヲ附シテ十八歳ト爲シ

(2) 條約ヲ實施セサル特殊地域トシテ朝鮮 台灣及関東州  
ヲ指摘シテ宣言シ後ニ樺太及委任統治地域ヲ追加シ  
タルハ適當ニ非サルノ旨ノ意見ヲ附シテ可決シタリ

政府ハ枢密院ノ意見ニ願ミル所アリ千九百二十七年三月  
巴里ニ於テ帝國全權ヲシテ年齢ニ関スル留保ヲ撤廃スル  
ノ旨ノ宣言ヲ爲サシメタリ

帝國ハ大正十四年十月一九一〇年ノ國際條約ニ加入シ其  
ノ結果當然ニ一九〇四年ノ國際協定ニ加入スルコトトナ  
リタリ

々聯盟ニ於テハ前示禁遏條約ノ目的ヲ達スル爲婦人兒童賣  
買委員會ヲ置キ國際的婦人兒童賣買事情ノ調査ニ當ラシ  
メツツアリシカ昭和六年六月此ノ委員會ニ於テ選任シタ  
ル バスコム、ジョンソン氏外ニ石ノ實地調査委員會カ東洋ニ

於ケル実情調査ノ為本邦ニモ渡米シ帝國ニ於ケル醜業婦  
 ノ國際的賣買ノ実情ヲ究メ尙帝國內ノ賣買制度ニ関シテ  
 モ参考トシテ調査スル所アリ本年九月七日迄ニ関スル調  
 査報告書ヲ帝國政府ニ寄セ其ノオブザーヴエションヲ求メ  
 來レルガ政府ニ於テハ十月二十八日在ジエネーブ國際聯  
 盟婦人兒童実地調査委員會ニ対シ其ノオブザーヴエションヲ  
 送付セリ

一三 東北地方ニ於ケル婦女身賣防止ニ関スル件

社會局ヨリ東北六縣ニ対シ身賣防止ニ関シ貸付金ヲ送付シ  
 タルヲ以テ別ニ警保局長ヨリ之カ運用ニ関シ警察當局ト社  
 會事業團躰当局及民間團躰ト連絡忖調セシメ之カ目的ヲ達  
 成セシメ之カ目的ヲ達成セシムル様左記通牒ヲ發セシメタ  
 リ

左記

警保局警費甲第一四六號

昭和九年十一月廿日

内務省警保局長

関係廳府縣長官殿

(青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島)

婦女身賣防止ニ関スル件

凶作窮乏ニ伴ヒ所謂婦女身等等ノ弊實漸ク激カラントスルノ  
狀勢ニ有之候處今般社會局社會部長ヨリ東北窮乏地方婦人ノ  
身賣防止及職業紹介ニ関シ別途通牒ノ次第モ有之右ハ極メテ  
有効適切ナル儀ト存セラレ候ニ付テハ之カ運用ニ関シ警察當  
局ハ宜ク社會事業関係當局及民間諸團縣ト連絡協議シ其ノ目  
的達成ニ努ムルト共ニ取締上並ニ措置等ニ当リテハ左記ニ依  
據シ婦女身賣防止及保護ニ付遺憾ナキヲ期セラルル様致度

追而本件ニ関シ東北六縣外各廳府縣長官ニ対シテハ各廳府  
縣同特ニ連絡協議ヲ緊密ニシテ之カ目的達成ニ遺憾ナキヲ  
期セラルル様通牒致置候爲念

記

一、藝娼妓、酌婦、紹介營業者及營利職業紹介業者ノ取締ニ関シ

左ノ各項特ニ注意スルコト

イ、此際營業者ニ対シテハ嚴重ナル警告ヲ發シ求職者ヲ勧誘  
シ又ハ誇大虚偽ナル言辭ヲ弄シ或紹介先ヲ隱蔽シ不正ナ  
ル契約書ニ捺印セシメ或ハ白紙委任狀ヲ提出セシメ後日  
擅ニ稼業先ヲ記載シ或ハ之ヲ変更シ又ハ被傭者ノ意思ニ



反シタル紹介等ノ行為ヲ為サシメサルコト

口、違法行為アリタルトキハ嚴重ナル処罰ヲ以テ臨ミ場合ニ

依リテハ營業禁止停止又ハ許可ノ取消ヲ為シ又ハ契約書

承諾書等ノ偽造變造管利誘拐不法監禁等ノ非違ニ對シテ

ハ司法事件トシテ送致スルコト

ハ常ニ營業者ノ臨検視察ヲ行ヒ違法行為ナカラシムルト共

ニ紹介中ノモノニ對スル視察ヲ嚴ニシ身賣婦女ヲ発見シ

タルトキハ事前ニ保護措置ヲ講スルコト

一、娼妓・酌婦ノ願出ニ對スル許否ニ當リテハ左ノ良<sup>留</sup>ニ意スルコト

娼妓酌婦ヲラントスル理由及本人ノ意思ニ出タルモノ

ナルヤ父兄ノ強制又ハ紹介業者<sup>留</sup>ノ勧誘ニ依ルニ非ズヤ及

契約ノ内容ヲ詳細聴取シ漫然許可又ハ登録ヲ為スコトナ

ク他ノ正当ナル職業ノ斡旋等之カ保護措置ヲ講ズルコト

一、戸口査察 臨検視察ニ當リテハ婦女身賣ノ<sup>留</sup>発見ニ努メ之ヲ

発見シタルトキハ其ノ家庭事情ヲ詳細調査シ父兄ノ強制ニ

出デタルニ非ザルヤ又ハ營業者ノ勧誘ニ依ルモノニ非サル

ヤヲ探究シ父兄又ハ保護者ニ對シ必要ナル前借金額及其ノ

便途ヲ訊シ且身賣後ノ結果ヲ諭示シテ反省ヲ求メ出郷ノ已

ムヲ得ザルモノニ對シテハ正当ナル職業ニ就ク様其ノ各場

合ニヨリ適當ナル保護措置ヲ講ズルコト

一、移動警察ハ此際不正紹介ニヨル婦女移送並ニ誘拐防止又ハ不法監禁等ニ対シ列車中ノ検索ヲ行フコト

一、各廳府縣同本件目的達成上諸般ノ事項ニ付相互連絡協調ヲ保テ遺憾ナカラシムルコト

一、各種社會施設ト接カシ之カ防止ニ積極的方策ヲ講スルト共ニ婦女ニ正當ナル職業ノ斡旋方ニ付處置ヲ講スルコト

一、一般ニ負操觀念ヲ蔑視スルカ如キ惡習ノ矯正ヲ圖ルカ爲公共團體教化團體等ノ活動ヲ促シ之ト協調シテ適當ナル方法ヲ講スルコト

#### 一四 風俗取締ニ關スル件

近時風俗取締營業者ニシテ俗流ニ投スルニ急ナルカ爲歟ハ新ニシテ奇矯ナル營業設備歟ハ醜陋卑猥ナル言動ニ出ツル傾向アルヲ知聞スルハ遺憾トスル所ニシテ政府ハ善良ナル風俗ヲ維持シ國家風教ノ肅正ヲ圖ルノ緊切ナルヲ認メ曩ニ地方長官會議、警察部長會議、保安課長會議等ニ於テ之等營業免許ノ許否ヲ慎重ニシ且各般ノ風俗警察對象ニ對シテハ嚴正ナル取締ヲ行フ可ク訓達スル所アリタルガ、カフェー、バー、ダンスホール等ニ對シ廳府縣長官ヨリ詳細ナル調査報告ニ接シタルヲ以テ之ヲ基礎トシテ目下銳意之ガ取締對策ヲ考究シツ

ツアリ

其ノ風俗警察取締ニ關シ考究中ノ事項ノ一斑ヲ掲ゲレバ左ノ

如シ

一、カフェー、バー、ノ取締

近時簡易且安價ニ享樂シ得ルカフェー、バーガ一般ニ歡迎セラレ料理店、飲食店等ノ營業者ニシテ之ニ轉業スルモノ又ハ新規開業者等簇出スルノ傾向ニ在リ、昭和八年中カフェー營業者ハ三萬九千九百十九、女給數ハ九萬四千二百八十五人ニ及ヒタル結果營業者間熾烈ナル競争ヲ招來シ爲ニ大衆嗜好ト相俟ツテ前叙ノ如キ批發的ナル構造設備ヲ競ヒ又ハ淫猥ナル言語動作ニ出スルモノ屢出スルニ至リ一般ノ風

俗ニ影響スル所勘カラス、今日ノ儘放任スルニ於テハ實質剛毅ナル國民精神ヲ蠱毒シ延テ倫理觀念ヲ弛緩セシムルニ至ル可ク國家風教上憂慮ニ堪ザルヲ以テ之ガ取締ニ關シ目下銳意研究中ニ屬スルモ其ノ事項概ネ左ノ如シ

イ、設置場所ノ制限ヲ嚴ニシ都市ノ主要街路ニ面スル場所又ハ住居地域或ハ學校、病院等特ニ靜謐ヲ要スル場所等所謂カフェー設置場所制限ノ問題

ロ、規模著シク大ナルモノ又ハ俗悪奇異ナル裝飾又ハ色彩ヲ施セルモノ華美ナル電飾又ハネオンサインノ電飾等ニ對スル制限別室疊敷客席又ハ舞臺舞蹈室等營業設備制限

ノ問題

ハ、營業時間、騒音防止、興行類似行為禁止、未成年學生生徒入場制限、客ノ勸引禁止、女給ノ保護等營業者ノ遵守事項ニ関スル問題

ニ、女給又ハ雇人ノ風俗上ノ取締ノ問題之ナリ

二、ダンスホール

ダンスホールノ風俗上ニ及ボス影響ハ甚大ニシテ最モ關心ヲ要スル所ナルガ昭和八年八月一日未現在ニ於ケル公開セラル舞蹈場數ハ四五、ダンスサークル四九二、教師八九人ニシテ非公開ノ舞蹈場ニ九、ダンスサークル四一、教師四九ニシテ之ヲ合計スレバ舞蹈場七四、ダンスサークル一五三三、教師一三八ヲ

算ス。ダンスホール設置ノ可否及學生青少年等ノ出入制限既設ダンスホールノ取締ニ關シテハ目下廳府縣長官ヨリ詳細報告アリタルヲ以テ之ヲ基礎トシ調査研究中ニ屬シ近ク具體的ニ全國的取締ノ方針ヲ樹立セントス

一五、演劇脚本檢閲統一ニ關スル件

從來演劇脚本ノ檢閲ハ廳府縣又ハ警察署ニ於テ之ヲ爲シ居レ  
ルモ文藝家或ハ當業者等ハ斯ル制ヲ不可ナリトシ内務省ニ於  
テ之ヲ實施シ所謂脚本ノ統一の檢閲制度ヲ採用スベシトノ希  
望ヲ有セリ當局ニ於テモ本件ニ關シテハ夙ニ考究セル所ニシ  
テ今其ノ統一の檢閲制度ノ長所トスル點ヲ擧クレバ

(1) 相當ノ知識經驗アル者ヲシテ之ニ專從セシメ得ルヲ以テ  
檢閲ノ適正並當ヲ期シ得ルコト

(2) 巡業等ノ場合同一脚本ノ檢閲ヲ反覆スルヲ要セザルヲ以  
テ當業者ニ利便ヲ與フルノミナラス官廳ニ於テモ事務ノ簡

捷ヲ期シ得ルコト

(3) 廳府縣間ニ於テ彼是取締ノ程度ヲ異ニスルコトナク從來  
之ガ為ニ生シタル非難ノ如キ之ヲ妨止シ得ルコト

統一的檢閲制度ハ叙上ノ如キ長所アリト雖又一面次ノ如キ短  
所ノ存スルコトヲ認メザルヲ得ズ

(1) 脚本自體ニ在リテハ公安風俗上支障ナシトスルモ其ノ演  
出方法或ハ舞台裝置等ノ如何ニ依リテハ相當考慮ヲ加フル  
ノ要アルモノアリ即チ活動寫真フィルムノ檢閲等ト同視ス  
ルヲ得ザルモノアルヲ以テ中央ニ於テ單ニ脚本ノ形式的審  
査ヲ為スノミニテハ到底取締上ノ必要ニ應スルヲ得サルコト

(2) 地方巡業ヲ主トセル多數ノ小劇團ニ於テハ脚本ノ檢閲申  
請ニ関シ不利不便ヲ感シ實行上著シク困難ヲ覺ユルコト

(3) 出場能優ニ依リ脚本ノ内容ニ変更ヲ加フルノ事例少シト  
セス從テ公開期日ノ妨迫セル場合等ニ於テハ内務省ニ其ノ  
変更ノ申請ヲ為スノ遑ナク當業者ニ於テ甚シキ不便ヲ感ズ  
ルコト

(4) 脚本ノ種類、數量ハ活動寫真フィルムニ比シ著シク多キ  
ヲ以テ統一的檢閲制度ヲ設クル為ニハ多額ノ國費ヲ要スル  
コト

演劇ノ一般民衆ニ與フルノ感化ハ寔ニ甚大ニシテ之カ取締ノ  
 適否ハ國家公共ノ安寧風俗ニ関スルコト大ナルモノアルノミ  
 ナラズ若シ其ノ當ヲ得ザルニ於テハ文藝ノ發達ヲ阻害シ當事  
 者ニ幾多ノ不利不便ヲ與フル等其ノ及ホス影響尠カラザルモ  
 ノアルニ鑑ミ今直ニ制度ノ變革ヲ斷行スルヲ得スト雖曩ニ内  
 務省ハ通牒ヲ發シ各廳府縣相互間演劇拒否ニ関シ通報ヲ爲シ  
 之カ連絡協調ヲ保持スベク指示シタルガ更ニ可成速ニ前示統  
 一的檢閲制度ノ短所トスル所ヲ究ムルト共ニ之ヲ除却スルニ  
 適當ナル方途ヲ考究ス ； 努メ其ノ成案ヲ得タル曉之ヲ實行  
 セムトス

一六、 大阪爆發物貯庫及横濱爆發物貯庫移轉ニ關スル件

大阪市住吉區北島町所在當省所管爆發物貯庫ノ移轉ニ關シテ  
 ハ大正十年以來地元住民ヨリ屢々貴衆兩院へ請願書ヲ提出ス  
 ルト共ニ當省ニ陳情書ヲ提出シ更ニ大阪府會及大阪市會ヨリ  
 稟議及意見書ノ提出アリタル處ナリ而シテ同貯庫所在地附近  
 ハ近時相當發展ヲ遂ケツツアルハ事實ナリト雖未ダ依ニ貯庫  
 ヲ移轉セザルベカラザルノ程度ニ在ラザルモノト認メラル然  
 レ共將來大阪都市計畫ニ関シ或ハ國防又ハ災害事故等ノ見地  
 ヨリ觀察スレバ現位置ニ存置セシムルコトハ適當ニアラザル  
 モノト認メラルルヲ以テ之カ移轉ニ関シテハ相當調査考究中



ナリ

尚横濱市所在當省爆發物貯庫ノ移轉方ニ関シテモ數年來地元  
住民ヨリ當省ニ陳情スル所アリタルカ其ノ所在地タル同市中  
區堀ノ内町ハ現在ニ於テハ横濱市ノ署中央ニ位スルニ至リタ  
ルヲ以テ該貯庫ノ所在地トシテ適當ナラザルノ感アルハ之ヲ  
認メラルル所ナルヲ以テ適當ナル移轉先及移轉經費ヲ得ルニ  
於テハ其ノ移轉ヲ實施スルニ吝ナラザルベク目下調査中ニ屬  
ス

昭和九年十二月

活動寫真ライオン檢閲概況

警保局



一 経過及検閲機関

治勅寫真「フィルム」ノ検閲ハ從前各地方

級ニ於テ直接之ヲ執行シツ、アリシモ

検閲上往々統一ヲ缺キ且其ノ手續益々

煩瑣ヲ免レサルト共ニ著シク映画ノ發

達スルニ伴ヒ検閲上特殊ノ智識ト經驗

トヲ以テ専門的ニ之ニ當ラサルヘカラ  
サルノ要切ナルモノアルニ至リシヲ以  
テ茲ニ大正十四年五月活動寫真「ファイル  
」檢閲規則ヲ制定シ同年七月一日ヨリ  
之カ統一檢閲ノ制ヲ實施スルコト、ナ  
レリ

其ノ後申請件数益々増加シ最近一年間

(自昭和八年七月至昭和九年六月)ニ於ケル一ヶ月ノ平

均件数一、三一五件、同巻数五、八三九巻

同米数一、三二六、七五七米ノ多キニ上レ

ルモ時事其他特ニ急ヲ要スル「ファイル」ム  
ニ対シテハ即日其他ノモノニ対シテハ

申請、翌日検閲ヲ了スル現況ニシテ此  
モ停滞ヲ来スカ如キコトナキモ昭和四  
年五月發聲映画ノ輸入以來異常ノ流行  
ヲ来シ最近其ノ検閲申請頓ニ増加シ一ケ  
月間ニ於ケル平均件数三四〇件、同卷  
数一、八三一巻、同米数四四三、九三七米

ノ多キニ達セリ目下「ウエスタン、エレク  
トリック」會社製ノ發聲機ヲ裝置セル映  
寫機ニ台ヲ備ヘ付ケアルモ尚發聲映画  
ノ發達ニ伴ヒ將來之カ申請増加ノ見込  
アルヲ以テ増設ノ要アルモノト認ム

「フィルム」ノ傾向

最近本邦映画界ニ於テ着ラル、特ニ顕著ナル現象トシテ掲クヘキコトハ、輸入映画ニ在リテ最近伴蘭西、独逸、伊太利等ノ欧洲映画カ比較的多数輸入セラレタルニ対シ蘇聯映画ノ輸入カ一時

ノ如ク旺ンナラス寧口最近ニ於テ終熄状態ニ陥リタルコト、及本邦製作映画ニ在リテ現今ノ所謂非常時ヲ反映セル映画ノ流行ヲ見タルコト之ナリ。

蘇聯映画ハ元来蘇聯国ノ社会共產主義

国家ノ謳歌並ニソレカ宣傳ヲ目的トシ  
テ製作輸出セラルルモノニシテ、我國  
ニ於テモ一部人士ノ間ニ相当熱バニ愛  
好セラレタル處アリシカ、最近我國一  
般ノ社会狀勢ノ變動ハ斯クノ如キ共產  
主義国家謳歌ノ映画ノ存在ノ餘地ヲ與

ヘス、且ツハ映画ソノモノ、單一性ハ  
観客ヲシテ漸ク興味ヲ失ハシムル結果  
トナリ遂ニ昨今ノ不振状態ニ陥リタル  
モノト思惟セラル。之ニ反シ最近我國  
トソノ国情ヲ稍等シクセル伊太利及獨  
逸ノ映画ニ寄スル大衆的興味ハ之等諸

国ノ映画ヲ多数我國ニ輸入セシムル結果ヲ導キ、一方亦佛蘭西映画モ同国映画ノ有スル特異ナル音樂的趣味カ僞々我カ映画愛好者ノ期待ニ投シ最近ニ於テ同国映画ノ輸入特ニ顕著ナルモ、アリ。米國映画ハ依然トシテ我國輸入映

画中ノ優位ヲ占ムルモノト雖之前述ノ如キ歐洲映画ノ進出ニ影響セラレテ多少ノ打撃ヲ受ケタルコトハ言フ俟タズ本邦製作映画ニ在リテ特記スヘキ現象トシテハ前記ノ如ク最近ノ國家社會情勢ヲ反映セル所謂非常時映画ノ出現ヲ

見之カ内容ニ関シ検閲當局ノ考慮ヲ煩  
ハシムルモノ次第ニ多キヲ加フル傾向  
ニ在リ。當局トシテハ曾ツテ数年前ニ  
於テ左翼映画ノ取締ニ當リタルト同様  
ノ嚴格ナル態度ヲ以テ此種映画中矯激  
或ハ無反省ナルモノニ對シ其ノ取締ニ當リテ遺憾

ナキコトヲ期スルモノナリ。

### 三、映画統制委員會設置

昭和八年第六十五議會ニ於テ提唱採  
セラレタル映画国策ノ向題ハ現下ノ国  
民精神指導上緊急重要ナル向題トシテ  
〆ノ具体案ニ関シテハ検閲當局ニ依テ

ハニ考究シツ、アリシトコロ昭和九年三月十三日内務大臣ヲ會長トスル映画統制委員會ノ成立ヲ見其ノ目的ニ何レ著々之カ研究ヲ進メラル、處アリ。

四、検閲標準ノ大要

検閲ノ目的トスル所凡ソ三アリ 申請

書ニ記載セラレタル題名、製作者名、其

他ノ事項ニ誤リナキヤラ調査スルコト

其ノ一ナリ 説明台本ノ内容カファイル

ハノ内容ト符合スルヤ否ヤ且其ノ用語

ハ公安風俗上支障ナキヤ否ヤヲ審査ス

ルコト其ノ二ナリ ファイルハノ内容カ



公安風俗若ハ保健上支障ナキヤ否ヤヲ  
査閲スルコト其ノ三ナリ

就中フイルムノ内容査閲ハ検閲事務ノ  
中杞ヲ爲シ之カ當否如何ハ直ニ公安風  
俗ノ保持ト營業者ノ利害ニ至大ノ影響  
ヲ齎スヘキモノナルヲ以テ慎重事ニ爲

ラサルヘカラサルヤ言ヲ俟タス依ツテ  
フイルム全体ヲ通シテ内容穩當ヲ缺キ  
其ノ儘上映スヘカラサルモノハ當然之  
カ検閲ヲ拒否スヘキモ内容ノ一部ニ支  
障アルニ止リ其ノ部分ヲ除去又ハ改作  
スルニ於テハ全体トシテ敢テ支障ナキ

モハハ談話部分ノ切除又ハ改訂ヲ命スル  
ノ方針ヲ採リ居レリ尚検閲ニ際シ担当  
者ノ向ニ其ノ判断ヲ異ニシ統一ヲ缺ク  
カ如キ事アルニ於テハ不都合ナル結果  
ヲ招来スヘキヲ以テ別ニ検閲内規(別紙  
添付)ヲ定メ監督者ニ於テモ特ニ此ノ点

ニ留意シ其ノ統一ヲ図リツ、アルト共  
ニ特ニ重要視スヘキ「ファイル」ニ対シテ  
ハ係員全部ノ合同査閲ヲ行ヒ検閲上毫  
末モ遺憾ナキヲ期シツ、アリ

第一号

檢閱内規

一、各号ノ一ニ該当スルゾイルムハ規則 第三  
條ノ檢印ノ押捺ヲ拒否シ又ハ切除其ノ  
他ノ制限ヲ加フルコト

一、皇室ノ尊嚴ヲ冒瀆スルノ虞アルモノ  
二、國家ノ威信ヲ損スルノ虞アルモノ

三、國体政体ノ變更其ノ他ノ朝憲紊亂

ノ思想ヲ鼓吹又ハ諷刺スルモノ

四、現在社會生活ノ根本打破ノ思想ヲ

鼓吹又ハ諷刺スルモノ

五、國交上ノ親善ヲ害スルノ虞アルモノ

六、社會紛議又ハ團體的爭鬭ヲ誘發ス

ルノ虞アルモノ

七、犯罪ノ手段方法又ハ犯罪若クハ犯人隠蔽

ノ方法ヲ示スモノニシテ模倣心ヲ誘發スルノ

虞アルモノ

八、敬神崇祖ノ良風ヲ紊リ又ハ善良ナル信

仰心ヲ害スルノ虞アルモノ

九、残酷ニ涉リ若クハ醜惡ノ感ヲ興フルモノ

一〇、猥褻ニ涉ルモノ

二、姦通ヲ仕組ミタルモノニシテ貞操觀ヲ紊ス

ノ虞アルモノ

一三、悪愛ニ関スル事項ヲ仕組ミ其ノ内容下劣

ニ涉ルモノ

一三、妄ニ他人ノ秘密又ハ家庭ノ内情等捕發若ハ

諷刺スル嫌アルモノ

一四、業務ヲ怠リ志操ヲ荒廢セシムルノ虞

アルモノ

一五、智徳ノ發達ヲ阻害シ教育上ノ障害トナルノ

虞アルモノ

一六、児童ノ悪戯心ヲ誘發シ又ハ教師ノ威信ヲ傷メ

ルノ虞アルモノ

一七、善良ナル家庭ノ風習ニ著シク反戾スル

事項ヲ仕組ミタルモノ

一八、感化遷善上ニ障害ト爲ルノ虞アルモ、  
 一九、保儀上障害アリト認ムルモ、  
 二〇、画面毀損若ハ磨滅シ又ハ震動甚シキモ、  
 二一、前各号ノ外公要風俗ヲ害スルノ虞アルモ、

第一表  
 活動寫真「フィルム」檢閲統計一覽

自昭和八年七月  
 至昭和九年六月

件数		卷数	
一五、七八〇件		七〇、〇七〇卷	
有料檢閲	有料檢閲	有料檢閲	有料檢閲
内制限	内制限	内制限	内制限
手数料免除	手数料免除	手数料免除	手数料免除
内制限	内制限	内制限	内制限
拒下	拒下	拒下	拒下
取	取	取	取
一一、二七五件	六〇八	六〇、一四〇卷	九、五二二
四、四三一	七	四〇八	
七四			

第二表

地方廳ニ於テ檢閲シタル「フィルム」数

自昭和八年一月  
至全 十二月

件数	卷数	米数	手数料
六四七件	一〇八三卷	一七五二八五・九八米	三一六・〇〇
有料檢閲	有料檢閲	有料檢閲	有料檢閲
内制限	内制限	有料檢閲	有料檢閲
手数料免除	手数料免除	手数料免除	手数料免除
内制限	内制限	有料檢閲	有料檢閲
手数料免除	手数料免除	手数料免除	手数料免除
新檢閲	新檢閲	新檢閲	新檢閲
復本檢閲	復本檢閲	復本檢閲	復本檢閲

米数	手数料
一五、九二二、〇八八米	八六四五二・一一
有料檢閲	有料檢閲
内切除	内切除
手数料免除	手数料免除
内切除	内切除
拒	拒
取	取
新檢閲	新檢閲
復本檢閲	復本檢閲
再檢閲	再檢閲
拒	拒
取	取

第三表

活動寫真「フィルム」現在概数（有効フィルム）

昭和八年十二月末日現在

計	外 国			日 本			国 別 件 数 其 他 途 甲
	米 数	卷 数	件 数	米 数	卷 数	件 数	
	四六、〇一〇、一一四	一九八、四七四	三六、四八七	七、〇八九、七三五	二、八九三、七	六、一〇〇	營業用
	五、四三九、九七三	二五、四〇九	一、二六二、四	三八二、〇二八	一、七二七	九四三	公益用
	五一、四五〇、〇八七	二二三、八八三	四九、一一一	七、四七一、七六三	三〇、六六四	七、〇四三	計
							三〇、三八七
							一六九、五三七
							三八、九二〇、三七九
							一一、六八一
							二、三、六八二
							五、〇五七、九四五
							四二、〇六八
							一九三、二一九
							四三、九七八、三二四